

第 1 回館山市議会定例会会議録
(第 2 号)

1 平成5年3月10日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 26名

1 番 秋山 光章	2 番 増田 基彦
3 番 島田 保	4 番 斉藤 実
5 番 宮沢 治海	6 番 植木 馨
7 番 鈴木 順子	8 番 永井 龍平
9 番 脇田 安保	10 番 庄司二三男
11 番 山崎 雅己	12 番 岩村 勝弘
13 番 榎本 春光	14 番 小宮 利夫
15 番 山中金治郎	16 番 鈴木 勝美
17 番 鈴木 忠夫	19 番 川名 正二
20 番 生稲 隆	21 番 神田 守隆
22 番 福原 勤	23 番 石井 昌治
25 番 流山源次郎	26 番 辻田 実
27 番 横溝 功	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 1名

18 番 日下 君敏

1 出席説明員

市 長 庄司 厚	助 役 小幡 清之
収 入 役 川上 義雄	市長公室長 永野 修
総 務 部 長 斉藤 賢司	民 生 部 長 佐藤 澄雄
経 済 部 長 小沼 晃	建 設 部 長 伊東 衛
水 道 課 長 鈴木 信一	教 育 委 員 会 長 高橋 博夫
農 業 委 員 会 長 斉藤 明	農 業 委 員 会 長 小倉 孝
	農 事 務 局 長

1 出席事務局職員

事 務 局 長 兵藤 恭一	事 務 局 長 補 佐 土橋 康彦
---------------	-------------------

書 記 鈴木 哲
書 記 松浮 郁夏

書 記 鈴木 修一

1 議事日程（第2号）

平成5年3月10日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（福原 勤君） 本日の出席議員数25名、これより第1回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（福原 勤君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の3月5日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

9番議員脇田安保君。御登壇願います。

（9番議員脇田安保君登壇）

◎9番（脇田安保君） 私は、通告してございます各諸点につきまして、御質問申し上げます。

まず、第1点の予算についてお伺いいたします。経済企画庁がこのほど発表しました2月の月例経済報告によると、現在の景気状況は日本経済は調整過程にあり、引き続き低迷しているという判断であります。個人消費の伸び

が低く、もう一つの景気判断材料である設備投資も減少とあって、まだまだ先が見えてこないのが現状であります。しかし、昨年7月から9月期の国民総生産は、内需の低迷で年率で1.6%のマイナスとなり、これは消費税導入時を除くと、円高不況の昭和61年1月から3月期以来、6年半ぶりのマイナス成長であります。

さて、景気の回復には国民総生産の約6割を占める個人消費と、2割を占める民間設備投資の回復が不可欠であります。企業収益が大幅に減益であることを考えますと、本春闘の賃上げについては、経営者側の抑制圧力が強まるのは必至であり、またバブル経済で肥大化した企業体質を改善するため、徹底した合理化を進めていく企業が過剰設備を抱え、これ以上の設備投資をするとは思えません。

こうした中で、政府は平成5年度の経済見通しを実質で3.3%と設定しましたが、多くの民間経済機関は政府の見通しより低い2%台の成長を予測しており、それも公共投資の拡大のほかに大幅所得税減税を織り込んだ上での2%台の成長であります。仮に5年度も実質成長率が2%程度にとどまるなら、雇用、失業問題、企業倒産等が深刻化しまして、国民生活は著しい圧迫を受けることになります。また、税収不足が拡大して財政悪化に拍車をかけ、福祉の充実や生活大国づくりのための基盤整備もおくれることになりかねません。したがって、ことしこそ景気の回復の年としなければなりません、政府にはそうした決意があるかどうか疑わしいと思われれます。景気に十分配慮したという政府の平成5年度の予算案は、冷え込んでいる個人消費を刺激する所得税減税を見送っておりますし、公共投資も4年度補正予算後の水準を下回っております。資産デフレが加わった戦後、我が国が初めて体験する新型不況に対するための予算にはほど遠いと言わざるを得ません。

さて、翻って本市の平成5年度の予算案は、一般会計では156億2,800万円、4年度当初予算比8.4%増となっており、厳しい財政状況の中で国、県及び地方財政計画をも上回る予算編成になっています。また、19%近い伸びを見せた特別会計と合わせて当初予算は261億3,455万円で、前年度対比12.4%と大幅増となっています。

一般会計の歳出は、主な事業では上水道事業への出資金16億 4,000万円を初め、工業団地進入路の用地取得に4億 6,200万、西口地区土地区画整理事業に2億 7,000万、下水道事業に2億 9,000万、長年の懸案だった館野保育園園舎建設に2億 2,500万円などとなっているほか、福祉、医療、教育、文化の充実、環境対策の強化と各分野にわたって施策の充実強化が図られたことについて、私は評価する次第であります。

そこで、本市の平成5年度の予算に対して伺いたします。歳入予算の内容を見ますと、国や県の緊縮予算が目につく中、市税の伸びや福祉の公共事業が多く、地方交付税、また国、県の出資金の増額が確保されて、前年度より上回る予算となったとの説明であります。地方債に頼る依存度も前年対比11.2%増と毎年同じように伸びています。また、予算に対する構成比が4年度、5年度と地方債に対する依存度が大きくなっていますが、地方債比率は類似市と比較してどうか、あわせて4年度市税、法人市民税、繰越金の決算見込みはどうですか、伺います。

次に、第2点目は地方拠点都市整備法について伺います。この地方拠点都市整備法は、地方の創意工夫を生かして地域社会の中心となる都市と、その周辺市町村から成る地域の都市機能の増進と居住環境の向上を推進すること、大都市の事務所など産業業務施設を地方拠点として移転させて再配置を図ることによって、均衡ある国土の発展に結びつけていこうというものであります。平成4年5月29日に成立、6月5日付で公布されています。今回政府6省庁間での合意に達した基本方針は、地方拠点都市の整備はどうあるべきか、国としての方向を示したものであります。ただ、これまでのテクノポリスあるいはリゾート法といった地方振興を目的とした法律とは違いまして、地域の選定、具体的な整備方針などが各市町村に出され、地域の承認も各知事が行うことになっている等、基本方針はあくまでもひな形的な内容が示されているにすぎないわけです。また、整備の進め方については、当面10年間程度を目標として、展望のもとに公共投資の重点的な実施を図ることとし、また市町村で定める基本計画に公共施設、住宅及び住宅地の供給といった居住環境の整備に関する事項、高企画幹線道路の整備といった広域的な交通電気通

信ネットワークの整備の必要性も盛り込んでいます。

次に、地域指定に関しては、地方定住の核としてふさわしい相当規模の人々を有すること、あくまでも市町村の自主判断に任せているが、当面は県庁所在都市、政令指定都市、人口最大都市は除外される模様であります。また、指定は地方拠点形成の意義の高いものから指定を行うとし、都道府県の人口、面積などに応じて、1都道府県当たり1カ所から2カ所を限度とするとしています。さらに、拠点都市整備の中でも特に重点的な整備を行う地域を拠点地区として位置づけていくとし、特に産業業務施設の整備を行う地域を業務拠点地区として定めることとしています。この業務拠点地区という表現は、今回の基本方針で初めて示されたもので、原則として5ヘクタールから100ヘクタール程度の接続した地域で中心都市、またその近郊に近い箇所とし、産業業務施設の全国的な適正配置のための地方の受け皿となるべき拠点として位置づけています。

そこで、市長にお聞きしたいのですが、こうしたよいチャンスといいますが、タイミングといえますか、こうした時期にこの地方拠点都市整備について、今まで協議されたことがあるのかどうか。また、広域的でこのような話し合いを行われたかどうか、御説明を承りたいと思います。また、市長の基本的な考え方を承っておきたいと思います。

次に、第3点目、館山工業団地について伺います。これ皆さんも御承知のように、インダストリアルパーク計画は、平成3年度の3月県議会で事業化が承認され、昨年9月に市議会で進入路の市道認定が決まりまして、新年度予算に買収費が組まれたことは、大変大きな前進をしたと思うものです。都市マスタープランの中で館山市の将来都市構造では、九重駅を中心としまして、市街地の発展動向を受けとめ、次の世代を担う産業機能、研究開発、高次教育機能、都市農村交流機能を配置する新複合機能ゾーンと位置づけられています。先般、私は企業庁に伺いまして、進入路、配水路の件について疑問点を伺った際に気のついたことでありますが、行政の縄張り意識が強いため、配水路の受け入れ先の河川を管理している土木事務所と連携が密にとられていないように受け取れました。私も何度となく滝川の河川改修の提案を

いたしましたが、なかなかはかどらないような気がします。

この際、館山工業団地をよりスムーズに、また早期完成に向かっての1つの問題点を推し進める意味においても提案したいのですが、市長を中心として国、県に河川改修を進める委員会、これは仮に河川改修促進協議委員会など、仮の名前が思い浮かべられますが、そうした河川改修を進める委員会をつくられたらどうか。そして、工業団地のスムーズな建設ができるよう、各関係団体に陳情、要望、その他の折衝を行って、これを進めていったらどんなものかと私は考えますが、この点に関して市長の御所見を承りたいと思います。

次に、第4点目は土曜完全閉庁による住民サービスについてです。この点については、非常に市民も関心を持っていて、今後週休2日制になった後、どのようなになるのかという心配もありますので、ここで質問いたします。

私は、去年の平成4年度に3月と9月の定例会で通告質問でこの問題を取り上げております。私の質問の内容をいま一度ここで繰り返しますと、休日に証明書等の発行ができないか、証明書の発行ができるように検討していただきたいというのが私の要望であり、言うまでもなくこれは行政サービスとして大変大事な問題であります。昼間働いている共働き夫婦は、証明書を1通もらうためにも大変な苦労が要るものです。現在、職員が休日に交代でやむを得ず出勤して、休日の火葬場の受け付けを行っていると聞いています。この質問の後に、市としていろいろ検討をさせていただいたようですが、先般行われました市長の施政方針演説の中に、平成5年4月から住民票などの電話予約制度を実施し、市民サービスの向上に努めることが明かされましたが、この制度は電話の予約で住民票などの証明書を土曜、日曜、祝日などに交付する制度であると思います。これは、市民サービスの上から一步前進した施策であります。どのような方法で電話予約制度が行われるのか、その内容につきまして、いまいし具体的に説明を賜りたいと思います。

次に、第5点目、中学の業者テストについてお伺いします。この件に関しましては、先般文部省から業者テストの取り扱いについて通知が来ていると思います。これは、今まで学校で行われていた業者テスト、つまり実力テス

トが廃止になるということです。この趣旨としては、偏差値ばかりに偏る高校のランクづけは、それに伴ういろいろな弊害があった。その弊害を改良するために、今後は行わないということのようです。しかし、現在の高校入試体制の中では、それにかわる適切な方法がないと思います。今までは、3年生に行う管下への安房郡市一斉模擬テストにより、志望校で何人中何番かを知り、そしてそのまま受験をするのか、変更するのかを、三者面談を経て進路の決定をしてきました。これからは、実力テストがないので、判断をする基準がなくなりました。もし仮に、学校内で学力テストに匹敵する問題をつくって校内で実施をしても、志望校に入る可能性があるかどうか判断が難しくなります。一方、確かに廃止の趣旨としてはうなずけるところもあります。何のために高校を受験するか、何のために勉強をするかということが軽く扱われたことは否めません。実力テストの結果が何番だから、変えようと、他人との偏差値の比較で大事な進路を決めていった嫌いもあると思います。これからは、こういうことを学びたいから、こういう学校に行くのだというように、自分自身の適性を考えて、目的意識を持った学習が必要になると考えます。

さて、問題は廃止後の受け皿なのです。高校に関する情報の収集や提供を行う全県的な協議会も必要になるでしょう。また、学校内や地域で行う実力テストのあり方なども協議をしていく必要があるように思います。そこで、質問ですが、この問題の受け皿について、当局においては今どのような検討がなされているのかお尋ねいたします。

最後に、6点目は地震対策について伺います。去る1月15日夜、北海道釧路沖で発生したマグニチュード7.8の大地震は、震度6を記録した釧路市を中心に多数の死傷者を出したほか、家屋の倒壊や鉄道、道路、水道、ガス等のライフラインにも影響が出るなど、200億を超すという大きな被害をもたらしました。震度6という烈震は、首都圏では大正12年の関東大震災以来記録がなく、今度の地震がもし南関東地域で起きていたら、改めて地震の恐ろしさを痛感させられたところであります。

中央防災会議は昨年8月、南関東地域直下型地震の対策に関する大綱によ

りますと、千葉、神奈川両県のほぼ全域と東京都の大部分、埼玉県東半分など広い範囲が震度6、またはそれ以上になるおそれがあるとされています。また、地震科学者によりますと、20世紀中にマグニチュード6以上の直下型地震が南関東に発生する確率は40%で、東海地震の発生確率と同程度と言われています。

そこで、大地震発生に懸念される問題についてお伺いします。まず、防災体制の見直しについてであります。現在の体制で十分であるとお考えであるかどうかをお尋ねいたします。

次に、多数の死傷者が出た場合の救護、医療、救急体制については、どのようになっているのかをお答え願いたいと思います。

以上、御質問申し上げました。市長の御答弁によりまして、再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの脇田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、平成4年度の個人市民税と法人市民税の決算見込みはどうかとの御質問でございますが、現時点では、個人市民税は25億円程度、法人市民税は6億円程度の見込みでございます。

次に、小さな第2点目、地方債比率は類似市に比較してどうかとの御質問でございますが、平成元年度以降の県内類似市と、当初予算での市債依存率で比較いたしますと、平成2年度を除き館山市が高くなっております。平成3年度以降市債が増加しておりますが、その要因は上水道出資債の増加によるものでございます。

市債につきましては、財政力の比較的弱い館山市にありましては、勢い投資に係る財源調達的手段として依存せざるを得ない状況でございます。

市債の発行に当たりましては、後年度の償還に際し地方交付税措置のあるもの、金利の低いもの等を借り入れ、将来の財政負担の軽減を図るとともに、地方債許可制限比率等の各種指標の動向にも留意しながら、健全財政の維持に努めてまいります。

次に、大きな第2、地方拠点都市整備法についての御質問でございますが、御承知のとおりこの法律は、平成4年8月1日に施行され、地域における創意工夫を生かしつつ、全国的な見地から地方拠点都市地域の一体的な整備の促進を図るとともに、産業業務施設の再配置の促進を図り、地方の自立的成長の促進及び国土の均衡ある発展を目指すものでございます。

なお、千葉県におきましては、首都圏整備法の近郊整備地帯が比較的広い地域を占めるため、昨年7月の全国知事会の申し合わせによりまして、本年度は、国との指定に関する協議は行わないこととしまして、次年度以降、本制度への対応を検討すると伺っております。

次に、大きな第3、館山工業団地についての御質問でございますが、平久里川の支流、滝川の整備につきましては、現在、千葉県が小規模河川改修事業によりまして、下流から逐次事業を進めているところでございます。館山市といたしましても、今まで滝川の整備促進を国や県に要望してきておりますが、今後、滝川改修の早期完成を目指すためにも、促進のための組織をつくる必要があると考えております。

次に、大きな第4、土曜完全閉庁によります住民サービスについての御質問でございますが、市民課窓口部門のサービスといたしましては、土曜日、日曜日などの休日でなければ来庁できない市民のために、4月から電話予約による証明書類の休日交付を実施いたします。これは、開庁日に証明書類の予約を電話で受け付けまして、休日に市民課で日直者が交付する制度でございます。交付できる証明書の主なものは、印鑑登録証明書、住民票、税関係証明書などでございます。

次に、大きな第5、中学校の業者テストの問題につきましては、教育長より答弁いたします。

大きな第6の小さな第1点目、防災体制の見直しについての御質問でございますが、館山市の防災体制につきましては、館山市地域防災計画で定めておりますが、見直しにつきましては、その都度館山市防災会議に諮り、実施しているところでございます。今回の修正でございますが、1つ目は、急傾斜地崩壊危険区域指定に伴う警戒避難計画の修正、2つ目は、千葉県防災行

政無線の再整備に伴う修正、3つ目は、大規模特殊災害時における広域航空消防応援などの修正を行ったものでございます。

次に、小さな第2点目、災害時の救護、医療、救急体制についての御質問でございますが、館山市地域防災計画によりまして、災害救助法を適用するような大災害が発生した場合には、災害対策本部に救護防疫班を組織するとともに、医療助産計画に基づきまして、地元医師会、近隣市町村、国、県、その他医療機関の応援を得て実施することとなっております。また、住民相互の協力、組織的行動力が被害を最小限に食い止められることから、自主防災会におきまして、応急救護訓練を積極的に実施しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答え申し上げます。

大きな第5、中学校の業者テストについての御質問でございますが、千葉県教育委員会からの通知が来ておりませんが、館山市教育委員会といたしましては、文部省発表の業者テスト廃止の趣旨を踏まえ、生徒1人1人が自分の能力、適性を考え、目的意識を持った進路選択ができるよう関係機関と十分連絡をとって、適切な進路指導を進めてまいりたいと考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） ただいま市長からる説明、御答弁いただきましたけれども、少し伺いしてみたいと思います。

まず、第1点の予算の方ですけれども、先月、新聞の暮らし向きの調査によりますと、全国的な調査では、今の景気が悪いと思う人が約8割を占めていると。その中で、次に、ふだん家計の支出の中で特に負担を感じているものというのは、所得税など税金に対して39%という大分高い、5人に2人、これが税に対しての重税感を感じていると、そういうふうなことが新聞等に出ておりましたけれども、そこでお聞きしたいのですけれども、税などの経

常的なお金はどういう方面に使われているか。また、その経常収支比率とか財政力指数は、類似市と比べてどうなのか。資料がありましたらで結構ですけども、県内30市で、館山市は財政力がどの辺の位置に現在あるのか、その辺をあわせて回答願いたいと思います。

それと、私が先輩から聞くところによりますと、当市との千葉県内で類似市は5市から6市というようなことをちょっと伺ったのですけれども、この比べた市はどことどこどこの市なのか、お聞かせ願いたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 総務部長。

◎総務部長（斉藤賢司君） 類似市と館山市の経常収支比率及び財政力指数についての御質問でございますけれども、平成3年度決算で申し上げますと、経常収支比率では、県内類似市では79.8%、館山市は72.9%でございます。財政力指数では、類似市が0.629、館山市が0.708でございます。それで、類似市はどこということですが、類似市につきましては、類似団体別市町村財政指数表ということで自治省の方で取りまとめしております。その中で、類似市ということで人口及び産業構造で規定されておりまして、館山市が入る類似団体というのは、県内では1市です。全国では、41団体がその類型に入っております。そういう意味で、先ほど類似市と比べた場合は、県内1市類似する団体と比べて御答弁しております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 県内は、佐原市かなと思うのですけれども、私の聞いたところでは5市か6市、ということは今現在では同じ市は2市しかないというふうに言えるわけです。それで、経常収支比率と財政力指数だけで市を判断するのはやぶさかでないのですけれども、おおむね国が示している経常収支比率が70から80%の間に分布していれば、この点はいいのだというふうなことを聞いておるのですけれども、これだけで判断はできないのですけれども、また細かい点は委員会等でやっていきたいと思いますので、次に移ります。

拠点都市整備法なのですけれども、県内は今年度は行わないということで

ありますけれども、私も平成4年の6月5月、官報で交付されておりますけれども、その中の2項目、3項目の中を見ていきますと、当市等、安房地域に該当するようなふうにもとれたので、質問したわけでございますけれども、その中で、地域社会の中心となる地方都市及びその周辺地域の市町村から成る地域であること。4点目として、人口及び産業の将来の見通しから見て、地方の発展の拠点を形成する意義を有すると認める地域であることというようなところから観点があると、やはり安房という千葉県内でも一時、これはちょうど官報が出る1週間ぐらい前、日経新聞に114地域が名のりを上げていると、このように日経で言われているわけです。その中で、このときには茂原市が千葉県では1カ所入っておりました。そのようなわけですので、これからも千葉県だけを考えたときには、やはり安房というのは一番最南端であるし、いろんな面でおくれているということで、地域整備を進めていくのがいいのではないかと思います。それで、こういうふうな新しいものができてきたときに、どのようなルートといいますか、市としてはどのような方法、あるいはどのようなことでこういう新しいものを把握していくのか。答えてください。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） この地方拠点都市の関係につきましては、当然今の情報としては、国の方から流れてくるわけでございますけれども、いわゆるこういう法律関係あるいは事業の補助関係とか、そういう情報につきましては、上から流れてくる情報と、それから毎日出している官庁速報というのがございまして、それからの情報、さらに1週間に2回、地方行政という雑誌も出ております。そういう面で把握をいたしているところでございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） これも新聞に載っているのですけれども、これから地方の会議を衛星中継するというような記事がちょっと私の目に入ったのですけれども、これは自治省が行っている、衛星放送を使って国で行われる会議、そういうものを行政で見えていきなさいというか、参考にしていきなさい

というのが91年に始まって住民が、あるいは有線テレビを備えている地域は、その有線テレビでも流して、地域住民がこういう国で行われる会議、そういうものを傍聴できるようになるというようなことが、これ記事ですけれども、載っておりました。こういう会議、1回しか行われなかったのですけれども、今後数多くなると思います。今現在、こういうような体制、そういうものは整っているのかどうか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 有線テレビにつきましては、業者が名のりを上げて、その後商工会議所等の同意が得られずに、そのままになっていると聞いております。衛星放送を使って云々ということでございますけれども、この点につきましては、私どもの市町村にはそういうことは届いてはおりません。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） これは、また国の方でこう言っているのですけれども、いろんな面で情報をキャッチするような方法をお願いしたいと思います。

次に移ります。工業団地ですけれども、市長が答弁の中で言われている、促進委員会をつくってしていくということでございますから、これは要望にしておきますけれども、御存じのように、あの河川は上流の方が2つの上流から成っておりまして、その上流の方は、基盤整備の際に河川改修を行って箇所がきれいにできているわけです。それで、毎年秋から秋先、秋口になると、雨が多い時期になると、やはり下流も含めてはんらん、冠水というような事態がもう何年となく繰り返されている。やはり間の河川が狭いために、このような状況になるのでありますから、早い時期に促進委員会などを設立されて、陳情等を繰り返していったらいいのではないかと思いますので、ぜひともそれを早い時期に実現していただきたいと、これはお願いします。

あと、工業団地の件ですけれども、先ほどもちょっと触れましたのですけれども、今景気がこういうような状態で、工場の閉鎖だとか人員整理、あるいは企業の倒産だとか自宅待機と、いろんな悪い環境がたくさんあるわけです。それで、現在私の聞くところによると、工業団地に進出しようというよ

うな企業があるというような話を伺っておりますけれども、そのような計画あるいは打診してきている企業かあるいは会社等はあるのかなのか、その点を伺います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 館山工業団地への進出といいたいでしょうか、そのような問い合わせ、打診があるのかというような御質問でございますが、非公式ではございますけれども、複数の企業から問い合わせを受けていると、そういう状況でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 問い合わせがあるということですが、少し希望が持てるかなと思います。細かいどういう内容を聞くわけにはいきませんが、そのように問い合わせがあるということは、市長もいろいろな角度で工業団地のことに力を入れておりますので、またPRも大分あるのかなと思います。ですから、今後力を入れていきたいと、そのように思っております。

次に、土曜閉庁についてですけれども、土曜閉庁について、電話ですけれども、少し内容的にもう少し細かい点で、恐縮ですけれども、伺っておきたいと思えます。専用回線を設けて、予約をしていくのかということは、今現在市の電話回線、それは交換手を通して市民課なり、その担当なりに予約が行くと思うのですけれども、そうしますと、いろいろな面で仕事量がだんだん加算されてくるということで、専用回線でやっていった方がいいのではないかと、そのように思いますが、その点はいかなものか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 専用回線ということでございますけれども、現在の段階では、2月の広報にお願いしましたとおり、市役所の内線 257、276ということで、既存の電話でお願いしたいというふうなことを考えております。その模様によって将来専用回線が必要かどうか、そこらを判断していきたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） それは、先の使用の量によって決めていくということですが、私も何度か窓口というか、サービスについてのことで何度か議会に取り上げた中で、テレホン案内ということをお話したと思うのですが、これは御存じのようにいろいろ館山市を紹介するのに、あるいは案内をしていくのに、あるいはいろいろと聞く面等、いいのではないかと、そのようなことです。今まで、私が提案した中でこれはどのように検討されているのか、また今後計画的なものはあるのかどうか伺います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 1つの広報の手段として、テレホンガイドというのは1つの有効な手段だと、そういうふうな認識を持っておりますが、県内で実施している6市1町を私ども調査をいたしましたわけでございます。これによりますと、経費もさることながら、やはり1つの問題点としては、電話でやる場合にはハローダイヤルを使うか、あるいは自動の電話応答機と申しましょうか、市に大型のコンピューターを置いて24時間体制ということ、2つが考えられるわけでございますけれども、今まで実施している市町村の問題点としては、ダイヤル式だとかなり誤作動が多い、10%から15%の誤作動。プッシュホンだとそういうことはないのでございますけれども、そういう問題点があるということと、当初は非常に利用率はいいのだけれども、だんだん、だんだん落ちてくる、こういう面があるようでございます。

ちなみに、館山市の市域における電話の台数でございますけれども、約72%がダイヤルの回線になっていると、こういうことでございまして、今の段階では、先ほどもお答えいたしましたように、1つの有効な手段であろうと思っておりますので、今度検討をさらに重ねてはいきますけれども、現時点では考えておらないところでございます。

なお、テレホンガイドの内容につきましては、いわゆる市民便利帳といえますか、先ほど議員がおっしゃいましたように、窓口の手続だとかあるいはイベントの情報だとか、あるいは保健情報だとか、そういうものになるわけでございますけれども、ちなみにこの4月に館山市といたしましては、市

民便利帳を発行する予定となっております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 現在の段階では、そこまで考えていないということでありまして、これは週休2日になって休みが多くなる、また疑問な点あるいはわからない点が多々あるかなと。また、観光の面でもこれはプラスになるのではないかなと思いますので、今後またそういう機会がありましたら、検討していただきたいと思います。

次には、地震対策ですけれども、これも私もいろんな面で聞いたりあるいは何度か防災に対して質問いたしましたけれども、せんだってちょうど釧路沖地震が起きてから1カ月後に、NHKのテレビで朝、その後1カ月ということで放送しておりました。そのときに、皆さんも御存じのよう、記憶にあると思いますけれども、障害者の奥さんをかばって、落下してくるシャンデリアが背中当たって亡くなったというのを、テレビでずっと見ていたのですけれども、そのときの災害時の後でしたけれども、その方は3時間後に結果的には亡くなったのですけれども、負傷したときは元気で隣まで行って救急車の手配、119番を頼んだと。そのときに、電話で頼んだけれども、なかなか救急車が来なくて、来ましたらば、今度は病院をたらい回しというのですか、今はやりのそのことで、なかなか治療されなかったと。というのは、最後に隣町の病院に行って医者が言うには、もう少し早ければというようなテレビの内容でしたけれども、私が考えるには、そのときなぜその不運な事故が起きたのかというのがその放送の中で、電話による、県外というのですか、肉親の安否を気遣うので、電話が過剰ですか、パニックというのですか、そのような状態になって、消防から病院の方に連絡がとれなかったと。だから、まるきりあいている患者の来ない病院もあれば、満杯でもうどうしようもない病院もあると、そういうふうな状況だったというようなことを聞きましたけれども、このような今後そういうようなことがあるのかなと、NTTの方でも1回線ではなくて、また別の回線のバックアップということは、ちゃんと考えてはおると思いますけれども、釧路は現実的にそういう問題が起

きたわけです。でありますから、この体制というのですか、こういうことはその後の反省という意味ですか、防災なんかの会議の中で検討を今までされたことがあるのか、これからしていくのか、その辺を伺います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） いわゆる緊急時、特に大災害の場合の対応でございますけれども、毎年防災会議を開催しているわけでございます。その中で、こういう緊急のような場合も検討しておるわけでございまして、具体的には、先月行いました防災会議のときに、広域消防の消防長さんをお願いしまして、釧路沖地震の報告をしていただいたわけでございます。そういうようなことで、これらのいわゆる災害地の視察等の報告を受けまして、今後も引き続き災害に対する応急体制、救急体制、そういうものを市としてもやっていますし、また広域消防といたしましてもやっていくということでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） 体制を整えるということでありますけれども、そのときにいろいろな新聞等を見てもみると、いろんな状況があったわけです。例えば、ライフライン施設に大分影響が出まして、特に水道、下水道管の破損箇所が大分あって、市民生活も大分大変だったというような報道もありました。まして現在、館山市においても下水道をこれからやろうという段階に来ているわけです。釧路の場合には、下水道の普及率が何％でしたか、大分普及してございまして、早くやったときですから、こういうような結果が出たのかなと思うのですけれども、館山市の場合は、この下水道に関してはどの程度までもつのか、あるいは新しくこれから始めるのですから、そういう方面の研究といいますか、対策といいますか、その辺のところは考えてやっているのか、考えてこれから工事を施行していくのか、その辺伺っておきます。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 大地震の際の不可抗力というものもあるかと思いますが、過去の災害の教訓を参考といたしまして、地質調査等を

実施するわけでございますけれども、その中で次に実施設計を行うに当たりますして、十分な対応をしてまいりたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） その医療に対してのもう一点伺っておきたいのですが、せんだって千葉県内でも全国でも初めて出た船橋方式という救急救命士ですか、ドクターカーの配置、同じ千葉県内でも大分進んでいるなど感心に思ったのですけれども、全国でも初めてだと。医師を消防署に24時間常駐させて、そのドクターカーで救急に当たるのだというようなふうに船橋方式はなっております。普通のドクターカーは、病院に寄って医者に乗せて、それから現場に行くのが、普通の一般的なドクターカーであるというふうに認識していたのですけれども、船橋はそれ以上のもう一步進んで、今言ったように医師がいるのだと。これは、東京都でもできないすばらしい体制を整えたと思います。その中、千葉県33消防署がある中で、館山市もその1つに入るわけですが、この救急救命士、まず第1段階として救急救命士が整わなければならないのではないかと思いますけれども、これは昨年千葉県、県が打ち出した中で、平成10年度までに各消防署に3名の救急救命士を配置しようという計画を打ち出されております。安房の場合には、10年の何年度が目標なのか、何年度にそのようになるのか、それを聞きたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 救急救命士につきましては、広域消防の部分、業務になるわけでございます。そういうことで、私もちょっとその点について把握はしておりませんので、また伺って連絡をしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 脇田安保君。

◎9番（脇田安保君） まだ決まっていないようですけれども、確かにこれは同じ千葉県内でも進んでいるところとおくれているところがこれは行政の力関係でえらい違ってくると思うけれども、同じ一個の生命の重みからいけば、これは同じであるわけですから、船橋が重くて、こっちが軽いとい

うことはまずあり得ませんから、その辺を特に私は強調しておきたいのですけれども、この辺も含めてこういう制度の早期な配置計画を立てていただきたいと思います。

以上で終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で9番議員脇田安保君の質問を終わります。

次、26番議員辻田 実君。御登壇願います。

（26番議員辻田 実君登壇）

◎26番（辻田 実君） 私は、通告いたしました5項目について、御質問を申し上げたいと思います。

この5項目は、いずれも現在館山市において取り組まれている問題でございまして、この問題が今どのように進捗しておるのか、そしてこれらの問題がよりよいものになってもらいたいという念願を込めまして、御質問を申し上げますので、よろしくお願いをいたしたいと思います。

まず、第1項目は農業委員選挙の改革と米の自由化対策について、御質問を申し上げたいと思います。まず、第1点でございますけれども、現在米の自由化問題をめぐりましては、日本の国におきましては大変な問題になっております。日本だけではなくて、E Cを初めアメリカとの間において、戦争以上の交渉が続けられているわけでございますけれども、こうした中において、館山市の農業に占める割合は、千葉県の中においても非常に高いわけでございます。したがって、この問題につきましては市といたしましても、力強い対応をしてもらいたいと。

そこで私は館山市の産業別の従業員数を挙げてみたいと思うわけでございますけれども、従業員の一番多いのは農業で6,500名の従業員がおります。第2番目が商業で6,000人でございます。第3位が、工場労働者で3,000人でございます。第4位が、漁業でもって500名というのが主な労働者の状況でございます。官公庁の公務員等は、除外されておりますけれども、こうした中において、館山市の産業の中において、最も就業人口が多いのは農業でございます。全人口の約15～16%という非常に高い割合もやはりあるわけございまして、こうした中でもって、農業生産の中においても米の占める

割合が全体の35%に達しておるということでございますから、この米の自由化による影響というのは、館山の産業経済において非常に大きな問題が醸し出されるわけでございまして、そこでこうした状況を受けまして、市議会も再三にわたりまして米の自由化の反対の決議をいたしてまいりました。2月の末には、農協の通常総会の中におきましても、緊急決議がなされまして、関係機関に対して力強い運動が展開されておりますけれども、こうした中におきまして、館山市はどのような対応をなされておるのか、市長の所信をお伺いしたいと思うわけでございます。

2番目は、農業委員会の活動についてお伺いしたいわけでございます。農業委員会は、農地改革によりまして農地委員と、それから農業調整委員とが合併いたしまして、新しい日本の農業をつくるために、その1つの機関として法制化されたわけでございますけれども、その目的は農協を中心にした生産の集団化と生産力の向上により、食糧の確保にあったと思うわけでございます。しかしながら、高度経済成長の過程で工業化が非常に進みまして、その反面農業が切り捨てられる状況に追い込まれているわけでございます。こうした中において、土地を手放す農民が非常に多くなってきておるわけでございまして、このように農業が著しく減少していくということは、やがて亡国につながるような、好ましくない政治だというふうに私は思うわけでございますけれども、そこで館山市においても、こうした状況があるように思われるわけでございますけれども、最近におきます農地の転換状況、さらには農業委員会におきまして、農地の転換作業の件数と、それからそれ以外の件数がどのぐらいの割合になっておるのか、明らかにしていただきたいと思うのでございます。

3番目には、任期3年の農業委員の任期がこの7月になっているようでございます。したがって、そこで選挙が行われるわけでございますけれども、館山市の農業委員選挙は、ここ何回か無競争が続いているわけでございます。私は、この状況は余り好ましくないのではないかというふうに思うわけでございまして、この点について市長の所信を伺いたいわけでございます。

県下におきましては、県の方に問い合わせましたところ、半数以上の市町村において選挙が行われているようでございます。選挙を行っていない方が少ないわけございまして、こうした無競争の状態にあることを市長はどのように受けとめられておるのか、そのお考えを聞かせていただきたいと思います。

同時に、この原因が、館山市の場合、9カ所の9農協単位に、農家組合長の間でもって調整されておるということ、それも30年前の申し合わせが依然として今日、実情に即しないままに踏襲されておるということ。そして、3番目には議会推薦5名の枠のうち、2乃至3をこの公選の枠組みの中でもって、これらの調整段階でもって、議会をないがしろにするような形でもって進められて、議会にごり押ししてくるという傾向が見られているわけございまして、このことはまさに議会に対すところの冒瀆にもつながることであらうし、またこうしたことでもって、議会推薦の議員が無競争のための手段に使われていることについては、全く心外なことございまして、この点について市はどのようにお考えになっておるのか、お伺いをさせていただきたいと思うわけでございます。

次に、第2項目、館山駅周辺の整備と快速の乗り入れについてお伺いしたいと思うわけでございます。まず、第1番目にはこのたび館山駅東口の土地を取得されたわけでございますけれども、これは非常に絶好の機会であったろうということで歓迎するところでございます。そこで、その土地利用について具体的にどのようになされてまいるのか、御説明をいただきたいと思います。特に、都市計画によりますと、橋上駅の設置という問題がございます。と同時に、現在西口の開発が進められておるわけでございますけれども、これらとの関係においてどのように考えられておるのか、あわせてお伺いしたいわけでございます。

2番目には、駅の東口の市街地再開発研究会が昨年解散されておるわけでございますので、したがって今、東口の商店街でもって都市計画、また再開発、さらには区画整理等の委員会なり研究会、そういうものがないわけでございますので、今回東口の駅前の土地を確保しても、これをどのようにする

かということについて、地元商店街の意向というものを十分に吸い上げるような状況にはなっておらない。こうした中でもって、あの土地をどのようになされるのか、東口の商店街の駅前開発の委員会なり、研究会の再開は急務だと思うわけでございますけれども、この点もどのようにお考えになっておるのかお伺いさせていただきたいと思います。

3番目には、館山駅周辺の整備が進まないことは、館山駅に快速が来ていないことであるからだと思います。裏返して言えば、館山市の振興について、振興が進まないから、したがって快速もこっちへ来ないのだと、こういう見方がございまして、卵が先か、鳥が先かという論議になりますけれども、日本の都市の発展の形態を見てまいりますと、鉄道が通ることによって、駅ができることによって、そこを核にして発展していくというのが、ほとんど多くの都市に見られるわけでございます。そうした中でもって、現在神奈川県から君津まで快速が循環線として通っているわけでございます。これは、首都圏快速と言われているわけでございますけれども、それが館山に来ていないということが、とりもなおさず館山の発展をおくらせているものだと思います。快速が館山を通れば、おのずから首都圏の交通網の中に館山が入りまして、ローカル線ではなくなるわけでございますから、駅の周辺の開発も、館山市の開発も急速に進むことは明らかでございまして、この点について、最近快速の受け入れの運動なり、対応というものが十分なされておらないようでございますけれども、この点をどのように考えておるのか。

また、昨年鴨川までJRの複線が引かれることが決まったそうでございます。県知事の方から市町村の会議のときにこの旨が発表されましたから、まず間違いないと思うわけでございますけれども、こうなりますと、館山は随分おくらせてしまいまして、君津から館山間だけが複線が取り残されてしまうと、鴨川に1歩も2歩も先を越されるという状況が来ているわけでございます。この点についても、どうも最近複線化の運動というものが手ぬるいような感じがするわけでございますけれども、快速の乗り入れと、あわせて複線化の取り組みがどのようになされておるのか、今後どのようになされようとしておるのか、この点について所信をお伺いしたいわけでございます。

3 番目には、スポーツの振興と基金の積み立てについてお伺いします。このたび、ようやくと言っていいでしょうか、スポーツ振興法、私は数回にわたりましてこの設置をお願いしてきたわけですが、今ままで時期尚早ということでもって見送られてきたのが、ようやく今回実現の運びになりましたので、お礼を申し上げるとともに、この振興法を中心にして、館山のスポーツが大きく発展されることをお願いしたいと思うわけですが。そこでもって、これまで何回も繰り返して質問してまいりましたけれども、館山市の伝統から見て、柔道、剣道は中学、高校、国体でも優勝しているという名門でございます。この名門の館山市の中において、県大会のできるような武道館がないということについては、本当に情けないような感じがするわけですが、もう再度、再再度お伺いしますけれども、まだこの武道館の建設をする機が熟していないのか、またこれやろうという御意思がとおりになるのかならないのか、お伺いをする次第でございます。

2 番目には、現在中学校等の県大会では、公認の競技場が使用されております。そして、みんな、パターンというのですか、人工トラックの競技場でございます。しかしながら、館山にはこのパターンの競技場、それから 400メートルの公認の競技場がございません。これは、再三繰り返して質問されておりますけれども、これもやはり県南の中核都市として、何としても必要だと思います。いろんな議員からも質問されておりますけれども、スポーツ振興法の設置と同時に、やはり 400メートルのトラックをつくってもらいたい。今年度の鴨川市の予算を見ますと、400メートルの公認グラウンドをつくるために 9,000万円の予算が計上されておるということでございまして、公認の野球場を初め鴨川に一步越されたという状況でございまして、こういう状況でございしますと、スポーツの中心は鴨川へ行って全部やらなければならないと、こういうようなことになりかねないのでございまして、いいか悪いかは別といたしまして、私は安房郡の中核として館山市がスポーツ、文化、行政、すべてにおいて中核らしい役割と施設を整えることが重要であろうと思うわけですから、この点についてどのようにお考え

になっておるのか、お伺いしたいと思います。

それから、4番目に県立文化ホールの建設でございますけれども、この点についてお伺いをいたします。本年度調査が実施されたわけでございますけれども、その調査の実施内容はどのような形でもって行われたのか、お伺いをいたしたいと思います。そして、次年度において、平成5年度でございますけれども、これにつきましては、昨年12月の県議会で、館山市選出の庄司健男議員が質問をされておりまして、その中でもって県の企画部長は、本年度調査を行い、その調査により次年度から基本設計、建設設計をして平成7年には完成したいと答弁されておりますけれども、本年度の県の予算がどのようになっておるのか、その状況を聞かせてもらいたい。

3番目には、平成5年度が基本設計をつくる年でございますから、この基本設計がどのようにできるかが、もう文化ホールがどのようなものができるかと決定するわけでもって、非常に大事なときでございます。館山市としても、この1年で結構だと思っておりますけれども、部長、課長クラスを文化ホール建設の担当として専任で県との連絡を取り、市民の要望を実現されるような方策がとれないものなのか、4月の人事の異動の中でもってどのようにお考えになられるか、お伺いしたいと思います。

5番目に、国際交流の振興についてでございますけれども、市長は施政方針の中でもって国際交流協会の結成を明らかにしておりますけれども、その内容と運営がどのようになされようとしておるのか、内容を明らかにしてもらいたい。

2番目には、姉妹都市委員会というのが館山市にはございません。私は、ここ数年多くの市を訪問するときに、この姉妹都市委員会の状況を調査しておりますけれども、ほとんどの市においてこの姉妹都市委員会というのを持っております。また、相手のベリンハムにおいても、館山市との委員をもって、そこを窓口にして交流しているようでございますけれども、館山にはございませんので、この点をどのようにお考えになるのか。そして、この姉妹都市委員会と国際交流協会の関係はどのようになされておるのか、この点をお伺いしたいと思います。

3番目は、国際交流への協力体制でございます。現在、館山市で正式に国際交流が行われておりますのは、ベリンハムへ市の職員2名の派遣と、それから青少年相談員の派遣と、それからふるさと創生に基づく青少年の海外派遣、この3つが予算化されておるわけでございます。さらに、そのほか市議会の議長会の国際交流の参加というものが予算化されておりますけれども、現実的にはスポーツ少年団の日独交流、これは毎年15名前後が派遣し、受け入れをしていると、それからさらにはベリンハムとはライオンズクラブが交換学生を15人から20人、隔年ごとにやっておるとというのがその中心でございます。そのほかには、ユネスコ保育園や白百合幼稚園等において、活発なベリンハムとの交流をしておりますわけでございますけれども、こうした団体の状況を網羅して、やはり協力を得て幅広い国際交流協会の拠点というものをつくり上げていかなければならないというふうに思うわけでございますけれども、こうした点についてどのようにお考えになっておるのか、御所見をお伺いしたいと思います。

以上、5項目について御質問申し上げ、あとの項につきましては、再質問において行いたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

それから、通告した中でもって抜けておりますのは、3項目のスポーツの振興で指導者の育成についてでございますけれども、これまで計画には、リーダーバンクの設置、そして認定指導員の育成等を行うことになっておりますけれども、これらは非常におくれているようでございますけれども、どのようにされていくのか。

さらには、スポーツの振興資金の積み立てでございますけれども、他の町村を見ますと、このスポーツ振興基金というのは多くの市でもって積み立てております。館山は文化、芸術等、福祉でもって基金を積み立てておりますけれども、残念ながらスポーツ振興基金の積み立てはございませんので、この点について今後積立金をなされていかれる意向があるのかどうか、この点について御答弁をいただきたいと思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) ただいまの辻田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、米、農産物の市場開放に対する対応についての御質問でございます。この問題につきましては、現在国家間の大きな争点となっております。館山市といたしましては、全国市長会を通じ、平成3年11月、全国市長会の決議として米の輸入自由化阻止に関する緊急要望書、これをまとめ、また平成4年6月、米の安定的供給を確保するため、国内自給方針を堅持し、輸入自由化を行わないことを内容とする要望書を政府に提出したところでございます。今後も国の動向を注意深く見守りながら対応してまいりたいと考えております。

大きな第1の小さな2点目、3点目につきましては、農業委員会会長より答弁申し上げます。

次に、大きな第2の小さな第1点目、館山駅東口の土地取得とその利用計画の見通しについての御質問でございますが、今回の用地購入は、駅周辺市街地の整備と活性化を進めていく上で、必要不可欠という判断のもとに取得するものでございます。今後、住民の方々の御意見を反映させながら、有効利用してまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、市街地再開発研究会の再開と強化についての御質問でございますが、現在同研究会では、周辺環境が目まぐるしく変化している現状では、当分の間静観したいという意向で、研究活動を中断している状態でございます。市といたしましては、地元権利者の方々が積極的にまちづくりに参画していただくことを期待しているところでございます。

次に、小さな第3点目、JRの快速の乗り入れと複線化についての御質問でございますが、快速電車運行区間の君津以南への延伸、内房線の複線化につきましては、千葉県JR線複線化等促進期成同盟を通じ、東日本旅客鉄道株式会社に要望してきたところでございます。さらに、内房線複線化につきましては、関係市町村と連携を図り、千葉県知事並びに千葉県議会に陳情を行ってきたところでございます。今後も積極的に働きかけをしてまいりたいと考えております。

大きな第3、スポーツの振興と基金の積み立て問題につきましては、教育長より答弁いたします。

次に、大きな第4、県立地域文化ホールの建設促進についての御質問の小さな第1点目、本年度の調査結果についてでございますが、施設の建設に向けて基本方針、施設規模、施設運営のあり方等について、調査が継続中であると伺っております。

次に、小さな第2点目、次年度以降の見通しについての御質問でございますが、平成5年度千葉県予算において、南地域文化ホール建設事業として、基本設計、地質調査等の事業費5,250万円が予算化されているところでございます。

次に、小さな第3点目、受け入れ担当者の設置についての御質問でございますが、現行体制の中で関係課等の連携を図りながら、県との十分な協議を行い、建設の推進に努めてまいりたいと考えております。

次に、大きな第5の小さな第1点目、国際交流協会の構想と運営についての御質問でございますが、市民主体の国際交流を推進するため、市民の協会設立に対する自主的な活動を尊重するとともに、先進市の事例等を参考としながら、推進を図ってまいりたいと考えております。

次に、小さな第2点目、姉妹都市委員会の設置についての御質問でございますが、姉妹都市交流につきましても、国際交流協会の活動として推進してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点目、国際交流への協力体制についての御質問でございますが、現在館山市で行っております事業及び市民の自主的な国際交流活動につきましては、国際交流協会設立を進める中で検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 齊藤農業委員会会長。

（農業委員会会長齊藤 明君登壇）

◎農業委員会会長（齊藤 明君） ただいま、辻田議員の御質問にお答えを申し上げます。

まず、大きな第1の小さな第2点目、農業委員会の活動状況とその内容についてでございますが、農業委員会は農地等の利用関係の調整、自作農の創設、維持、その他、農業全般にわたる問題を農民の創意と自主的努力によりまして、総合的に解決していくことを目的とした利益代表機関でございます。農業委員会等に関する法律に基づき、設置されている行政委員会でございます。

次に、ここ数年の主な活動状況について申し上げますと、農地転用件数は、平成2年におきまして351件、12万6,800平方メートル、平成3年383件、17万3,444平方メートル、平成4年267件、11万7,956平方メートルと平成3年を境に今までの増加傾向から減少傾向に転じておるところでございます。

また、その他の業務といたしましては、農地の流動化による農地銀行活動、農用地の移動あっせん仲介、標準小作料の設定、農業者年金等の諸業務を処理しているところでございます。

次に、小さな第3点目、農業委員会選挙の現況と改善についてでございますが、これは昭和29年7月に第1回農業委員の選挙が行われ、以後3年ごとに改選されておりますが、そのうち昭和44年7月及び昭和59年7月にそれぞれ選挙が執行されましたが、その他の改選時につきましては無投票となっております。

以上で答弁を終わります。

◎議長（福原 勤君） 高橋教育長。

（教育長高橋博夫君登壇）

◎教育長（高橋博夫君） お答えいたします。

大きな第3、スポーツの振興と基金の積み立てについての御質問でございますが、小さな第1点目及び第2点目とも、スポーツの振興を図る上では、必要な施設であると理解しております。今議会におきまして、スポーツ振興審議会の設置をお願いしてございますが、この審議会の中で御検討をいただく内容だと考えております。

次に、小さな第3点目、指導者の育成についてでございますが、地域のスポーツ、レクリエーションや競技スポーツの活動が充実した指導者のもとの

行われることは、何よりも必要なことでございます。体育協会や体育指導委員、小中体連等、関係団体と連携をとり合い、スポーツ指導者研修会への積極的な参加を図ってまいります。

次に、小さな第4点目、スポーツ振興基金の積み立てについての御質問でありますが、今後の課題として検討してまいりたいと考えております。

以上。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 再質問をさせていただきます。

答弁としては、非常に無難な答弁でもって、わかったような、わからないような状況でございまして、この点について少し詰め細かく質問をいたしましたと思います。

まず、第1項の農業問題でございしますけれども、農業委員の選挙が無競争になっていることについての所感を伺ったわけでございますけれども、この点についてなされていませんので、再度その点を教えていただきたいと思います。

2番目には、具体的に先ほど申したように、農協単位にこれが調整をされながら、無競争工作というものが進んでいるようでございしますけれども、選挙法の精神からいって、館山市においては、農業委員会選挙の選挙区というのが大選挙区になっているわけでございますから、そういう中でもって地域別に調整をしながら無競争に持っていくということは、法の精神にも反するわけございまして、この点は現実に即応させていかなければならない。現実的に即応させていくということになれば、多くの県下の市町村においても小選挙区制がとられるところがあるわけございまして、そういう点については、今の推薦制度を前提とするならば、小選挙区制を執行しなければならないのではないかと、議会としてもこの点について真剣に考えなければいけないと思うわけございしますけれども、この点はどのようにお考えになっておるのか、お伺いをしたいと思うわけございします。

◎議長（福原 勤君） 斉藤農業委員会長。

◎農業委員会会長（斉藤 明君） ただいまの再質問に対しましてお答えい

たします。

小選挙区制の導入についてということでございますが、農業委員会等に関する法律に基づきまして、1委員会1選挙区が原則になっておりますので、現段階では困難かと存じます。公選委員の定数増員ということで解釈されますが、この問題につきましては今後慎重に検討してまいりたいと存じております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 増員云々は問題ありませんけれども、要するに30年前にある程度農協単位に割り振った農業委員の定数というのですか、これが今変わってきていると思うのです。実際に、今区割りの的に見てみますと、農家人口の一番多いのは豊房で2,100、神戸が2番目でもって1,800、3番目は九重1,300、一番小さいところでもって富崎は9名と、こういうのがあるわけでございますけれども、先ほど御答弁いただきました農地の転用件数云々によって、その件数を処理するということでもって、かつては昭和58年から件数が1,000件を超えていたわけです。最高のときは、60年が1,427件も農地転用の申請があって、てんやわんやしたのですけれども、今聞きますと、ここのところ300台に下がったということですから、4分の1ぐらいに下がってきているわけでございますから、そうした状況等も考慮して現実的な調整なり、対応をする必要があるのではないですか。今までおらの方から出ていたのだから、おらの方はこれ欲しい、1人では調整がつかないから、2人にしてもらいたいと、こういうようなことでは館山の農業も進みません。もう少しそういった耕地面積なり、農家人口、そして転用件数なり、仕事量というのを吟味して、もうちょっと調整というものをきちんとやり直さなければ、全く封建的なマンネリ化と言わざるを得ないのですけれども、こういう調整はどこでやるのですか。今後そういうものはどういうところで、我々議会人としてもそういう面についてそうしなさいという相談に行ったらいいのか、その点について教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 斉藤農業委員長。

◎農業委員会会長（斉藤 明君） 大変難しい問題でございます。現況におきましては、昭和29年に人員の設定を見てから、30年この方そのままということでございますけれども、これは私どもといたしまして、今後慎重に検討をしなければいかぬなということを痛切に感ずるわけでございますが、これも現在の中で、どなたがどうしてということについては、私どもお答えができかねるわけでございます。責任が大きい問題でございますので、その当時どんな形でもって、現在の公選委員15名ということが設定されておるのか、これらについても先輩諸公の御意見、そして割り当てをしました、いわゆる目標数ということで、これらがどんな意味でもって設定されたのか、これらを検討しまして、そしてまた関係機関等とも、その結果においては、御相談申し上げながら前向きに検討させていただきたいと、こう存じております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 農業委員会の定数につきましては、公選が15、各種団体が2名、それに市議会推薦が5名ということになっているわけでございますけれども、ここ数年間、市議会の推薦、現在2でございますけれども、これが何か公選の穴埋めのような形でもってやられておると、その点について議会としても、実際の農業の状況からいって、地域において選出されていないのがあるし、またいろんな話し合いの中でもって、これこれ2名ないし3名の人がどうしても入れないと、スムーズにいかないのもって、議会としてもそういう実態を了として、何とか承認願えないかと、こういう申し出があるものですから、その都度それはおかしいのではないかとということでやってきたけれども、今回限り今回限りで3年ぐらい続いているのではないかと思います。前回等は那古船形地域、その例に挙げてはいけないのですけれども、現在館山北条地区から1名、それから那古船形地区から議会推薦1名だということを前提にして、その調整が進められているようでございまして、議会を無視したというような行為については、今後はまかりならぬと思うし、前回が那古船形地区から2名の議会推薦をしてもらいたいという要望があったものですから、那古地域から2名ということになると、他の割

合からいってだめだということでもって、1名の方に辞退してもらったということでもって、非常に気の毒なことをして申しわけなく思っているわけですが、今度改選される選挙の中において、議会推薦の枠を公選のいろんな調整なり、公選の選挙の枠の中でもって、当てにするのかしないのかははっきりしてもらいたい。議会としては、議会としての固有の問題でやりたいし、またその公選の中でもって枠がどうしても議会から2つなり3つ欲しければ、定数の増をすればいいのであって、そういう裏取引が行われるような形の議会推薦の委員を地域の中に割り振るということだけは、よしてもらいたいと思うわけですが、この点についてはどのようにお考えになるのか、そしてどのように対処されるのか、所見をお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 齊藤農業委員長。

◎農業委員会会長（齊藤 明君） ただいまお答えしましたように、この問題は大変私どもといたしましては、重要な問題でございます。しかし、辻田議員のただいま質問の内容におきましてのことに対しては、慎重にこれを審議させていただきまして、特に関係機関等とも相諮りまして、前向きに今後の問題として検討していきたいと存じております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 館山市の農業というのは、昔から大変な苦勞して、安房の国というのですか、瑞穂の国の由来によりますように農業国であったわけでございます。最近、新聞社から出版されました「万石騒動」という単行本を読ませていただいたわけですが、その中で私は、川井藤左衛門という悪大官がおりまして、これを三義民が救ったということですが、あの本を見ますと、川井藤左衛門は農民は搾取したけれども、しかしながらそれは農地をつくって、藩の財政を豊かにするために、農地改革を一生懸命やり過ぎたために、この農民の反感を食って、やがて死罪になるという、こう哀れな面もあるのだということが指摘されて、ああ、そうかなというふうに思いまして、こういう本を見ても、館山に

おきます農地というものは、大変な血で血を洗うような中でもって育てられてきたものが、安易に転換されていくことについては、非常に不満でございますけれども、農業委員長は、「万石騒動」の本をお読みにになったのか、お読みにになったらその感想を聞かせてもらいたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 斉藤農業委員会長。

◎農業委員会会長（斉藤 明君） 辻田議員の質問でございますが、「万石騒動」についてどうかということについては考えておりませんので、ひとつ御了承賜りたいと思います。読んだことは2～3回あります。感想につきましての発言は許させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 結構でしょう。万石騒動は農民の鏡だと言われていいますから、よく御理解をいただきたいと思います。

それで、2番目に駅のことでございますけれども、住民と話し合いの中で、有効利用してもらいたいということでございますけれども、住民と今から話し合いしたのでは、平成8年に西口ができるわけでございますけれども、西口ができるまでに、あと3年間でもってあの土地の都市計画決定、そしてそれに伴うところの都市計画設定、そういうものをして間に合うのですか。とてもではないけれども、見通しはないと思うのですけれども、この点についてどのようにお考えなのか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） この用地取得でございますけれども、この用地取得の目的は、国道127号を中心とした館山の銀座商店街の地域の街路事業であるとか、商業地域の近代化、あるいは今東口の再開発が問題になっているところであるとか、そういった今後の動きあるいは橋上駅舎等の関連事業等に使われるのではないかと考えておりますけれども、この西口は平成7年度を目標にしております。そんな関係から急がなければならないのでございますけれども、とりあえずそういった事業に買っていきたいということでございます。もちろん、地域の住民、商店街の方々と十分これから話し合っ

こういったものをどのように有効利用したらいいかということこれから考えていくつもりでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 今、西口は順調に進んでいるというふうに伺っております。その状況については、もっと検討しなければいけないと思うのですが、平成8年にある程度目安がつかなければいけないわけでございます。あれが開発されても、西口がなければどうなるのですか。大変なことになります。あと3年しかありません、計画からいって。1年、2年延びてもいいとしても、5年以内に今の状況でもって通るという見込みはございますか。この点について私は非常に心配するのでございますけれども、その点について見通しだけで結構でございますから。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 先ほど申したとおり平成7年度ですから、平成8年度ですけれども、これに向かって事業化を進めておるわけでございますけれども、とはいうものの地権者という相手仕事がございます。そんなことで、精力的に進めておりますけれども、これについての地権者との合意がいつなされるか、それについての1～2年の延びるということもあろうかと思っておりますけれども、現段階では平成7年度末には終わらせたいということで考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） そういうことでいいと思うのですけれども、それで物理的にできる——私も長い間議員やっていますし、行政についてはかなり状況というのは判断しております。まだ都市計画設定も、地元の東口の商店街の話し合いもできていない中でもって、3年間でもってあそこの西口ができるというわけがないわけございまして、やるにはやはり地元の了解、そして基礎調査、そして基本設計、そして実施設計というものをやっていくわけでございますから、そしてようやくできるわけでございます。どうし

でも3～4年かかってしまうと。工事にしたって、鴨川、その他見たって、大体2年ぐらいかかっているということでございますから、西口はできたけれども、西口はあかないという状況が出たら、これは大変な問題です。この点については、ここでどうこう言うわけでありませんが、自由通路で対応するということ言っていますけれども、基本計画、また市議会の先般の請願書の採決に当たりましては、橋上駅ということでございますけれども、橋上駅はそう簡単にできる、もう2～3年でできるものではありませんから、自由通路でしたら、地元の東口の商店街の人との話し合い等をして、この8月ぐらいまでにそれを決めて、そして来年度の予算には基本設計ができるように、そしてこれは国、県の補助金ができるようにしていかないと、来年基本設計をして、そして実施設計に持っていくという段階、とてもいいかない。そうすれば、もう7年、8年とすぐ過ぎてしまうと思うのですけれども、この自由通路についてはどのように考えておるのか。余り市の基本計画、その他には載っていませんけれども、橋上駅と自由通路の関係についてどのように考えておるのか、御答弁願います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 過去のいきさつは、自由通路の建設、それから近ごろになりまして、それと合体する橋上駅舎ということになったわけでございますけれども、市といたしましては、その手戻りのないように考えております。それで、橋上駅舎かということも、自由通路を複合的に考えておりますので、そこら辺で早急に実施しなければならないとは思ってはおりますけれども、その意味でも逆に慎重に対応しなければならないと思っております。自由通路だけでは、ＪＲについての相手方についても乗り気ではないということをおっしゃいますので、そんなことから手戻りのないように考えておる、橋上駅舎と自由通路とを同時に施行しなければならないのではないのかというのが現段階の情勢でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 答弁としては、住民と話し合いして、有効利用し

ていきたいということで、これでいいのですけれども、これはもういつになってもまち明かないということになりまして、大変なことになります。それについて、はい、そうですかと議会でもって引っ込んでいるような議員では、また議員の資質が問われることになりますから、できるものはできる、我々としては予定を組んだのなら、ちゃんと西口は平成7年までにできるのだったら、平成7年に西口をつくるという作業を真剣に考えなければ、大変なことになるわけでございまして、これはここでもってやりとりしてもいけませんから、今後あらゆる機会を通じて、執行部と議会とも話し合いをして、西口の再開発はできたけれども、西口がないなんていうふうなぶざまなことを呈しないように今後進めたいと思いますので、この点についてはやめます。

それから、2番目には、もうずっと長い間複線化の構想が打ち出されてきているわけでございますけれども、館山市として複線化に対するところの土地の買収なり、そういった作業、そういうものは行われておるのか、行われておらないのか、その状況について御答弁いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 辻田議員さんは、おわかりかと思えますけれども、六軒町から渚におりてきます渚の市道と、八幡の市道との間の旧富士ディーゼルの引き込み線、これについては大体4メートルから幅員がございます。それで、700メートルについての用地取得を行っております。それが複線化になったときの用地取得でございます。さらに、つけ加えたいわけでございますけれども、終末処理場用地をおかげさまで買わせていただいたわけでございますけれども、これについてもJRと接続するところについては、将来複線化になったときの考えから、基本設計については、緑地帯として取っておこうではないかということでございます。さらに、富士ディーゼルの跡地でございますけれども、これについても将来開発行為が出てくる可能性がございます。また、それが必至だと思いますけれども、そのときにやはりそういった問題を取り上げて、これに対応していきたいと思います。そうしますと、館山市の全長の中のほぼ3分の1は、この複線化になったときの対応ができるのではないかしらと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 館山市だけでも複線化の用地を確保して、複線化実現の先頭に立っていただきたいというふうに思います。

その次に、文化ホールの問題でございますけれども、先ほどの答弁漏れでございますけれども、平成5年度の県の予算には、館山市の基本設計費としては4,500万円であるそうでございます。その他の諸費を入れて5,250万ということでございますけれども、鴨川にできるところのコンベンションホールの分室につきましては、7,900万円の基本設計が出ております。その他の措置を入れまして、約8,000何がしになっているわけでございますけれども、コンベンションホールと文化ホールつくるという立場からいって、館山の文化ホールの方の調査費が多くて、コンベンションの方は予算規模からいったって小さいし、設計からいったって簡単だと思うわけございまして、そういう点でもって鴨川が館山市の倍以上の基本設計持たれて、館山市が半分以下ということはどういうことなのか、こういうことでもって今後館山市が予定どおりの、また市民が要望するとおりの文化ホールというのが、そういう行為が反映されるかどうか、非常に疑問であるわけでございますけれども、この点についてはどのようにお考えになっておるのか、御質問いたします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 文化ホールとコンベンションホールは必然的に施設が違うわけですから、当然金額も違って来るものと、そういうふうな認識を持っておりますが、いずれにいたしましても文化ホールにつきましては、現在平成7年度の完成を目途に進めているところでございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） 質が違うから、質問しているのです。私は、メッセを見たり、いろんなところのコンベンションホール、外国も見てきました。ドイツ、さらにはヒューストン等も見てきましたけれども、あれは1つの展示ホールです。小会議室です。音楽ホールというのは、旭にある音楽ホール

に続いて南総にできるわけですから、非常に精密な機械といろんな設備、その他がたくさんありますから、基本設計するのに、同じ地域に同じ 1,000 万の調査費でスタートして、こういう差がつくのはおかしいと。これは、文化国際課とコンベンションの課が違うから、別なのですけれども、担当者に聞いたら、どういうことでしょうかね、不思議ですねと、こう言っていて、直接的な回答得らなかったけれども、だれが見たって不思議になります。館山市は、これ予定どおりにいかないのではないかと、鴨川より半分に減らされてしまったのではないかと、こういうような状況もあるわけですし、この点について、やはり文化ホールというのは県でつくるから、県立だと言いますけれども、館山市民も県民ですから、県民としての館山市民が使う県の文化ホールを館山市につくるということですから、やはりその点は館山市は真剣になってやってもらいたいと。そして、これもやっぱり50億前後の予算が旭のホール等を見てもかかるわけですから、市の担当者を置いて月に2～3回ぐらいは、用があってもなくても、県の担当者と打ち合わせて、そして基本設定の中でもってちゃんと 1,500人ぐらいのホールを中心としたこの文化ホールができるようにやっていかないと、結果的にはどうも県とこちらとの意思の疎通が十分とれないままで、こういう結果になって、申しわけありませんなんていうようなことになったら大変でございまして、そういう兆候がこの予算の上に歴然と出ているわけですから、その点についてはどうなのか。私はこういう状況でいきますと、館山はどんどん切り下げられていきまして、思っているよりも非常に小規模になったり、また時間もおくれてしまうというふうなことにもなりかねないので、その点についてどうなのか。こういう差がついたということについて、率直に言って市の当局はどういう感じを持ったのか。別だからということでもって済ませるのか。別だからこそ館山の方が多くなければいけないのが、反対になっているというので、質問したわけで、そういう常識があるのかないのか、私は質問しているわけですから、その点についての御答弁をお願いします。

◎議長（福原 勲君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 鴨川市に予定されているコンベンションホー

ルにつきましては、現実に館山市と同じようなスケジュールでつくるということではございませんで、館山市の場合には現実にある程度の場所を確保し、これからつくる、そのための基本設計あるいは地質調査等が 5,250万円ということでございます。したがいまして、鴨川における調査費といえますか、県の予算の内容と別なものだと、そういう認識を持っております。そういうことでございますので、鴨川のコンベンションホールが、例えば平成7年度につくるとかという問題ではございませんので、館山市とは違うものだと、こういう感覚でございます。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） そういうことでは、子供だましのようなものなのです。違うから違うと言っているのです。コンベンションの性格からいって、安房地域というこの母体、それからいって当然基本設計するには、基本設計費ということがあるのです。ほかの諸経費は別です。基本設計つくるのに、半分ぐらいの差がつくということについては、かなり館山の場合にはどっちが、館山を基準にしているのか、鴨川が基準になっているかということでもって、一般的に考えて大変な違いです。県の人もどうしてこういうのが出たのですかねと、こう言っていましたけれども、我々担当ではないから、わかりませんと言っておったのですけれども、これは館山市は該当として、多ければいいけれども、少ない場合には真剣に考える必要があると思いますので、この点についてはひとつ、そんな答弁を言ったって平行線でございますして、もう性質が違っているのは百も承知なので、違っているからこそ、逆に館山が多くなければいけないということを言っているわけでもって、それについては、時間もございませんので、今後進めたいと、今後いろいろ対応していきたいと、このように思っておりますので、よろしくお願いします。

最後になりますけれども、国際交流については、これのいろんな起案なりする発起人ていうのですか、どういう形でつくられるのか、事務局はどこで処理されていく予定なのか、そういう点について決まっておりましたら、ひとつ教えていただきたいと、まだ決まっていなかったら、どういう方向でやりたいという意向がありましたら、意向を教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 現在の状況を申し上げますと、国際交流協会の設立に向けて、現在通訳ボランティアとかあるいは文化ボランティア、あるいはホームステイボランティア、いろいろなボランティアがいるわけでございますけれども、そういう人たちが今話し合いを進めている状況でございます。話し合いを進めながら、一応県内の先進地を視察すると、そういうような状況でございまして、その人たちとさらに、これから国際交流協会ということになりますと、やはり市内の各層といいますか、そういう人たちと一緒にやっていかなければいけないわけございまして、そこら辺の話し合いが今進みつつあると、そういうような報告を受けております。

◎議長（福原 勤君） 辻田 実君。

◎26番（辻田 実君） これは、市の長期計画の中でも国際交流は市がやるというふうになっているのではないですか。そうすると、現実的にはそういったボランティアが最近できたというのはわかりますけれども、これはベリンハムとの関係でもって、ベリンハムとの交流の主体というのは、やはり市であり、館山市議会も過去4回にわたりまして、正式訪問団を向こうへ出したりして、その後最近は中断されておりますけれども、ライオンズとスポーツ少年団の日独交流というのが中心であって、そういうところの意向なり、議会についてもそういう報告も出ているわけでございますので、そういうところのものの意向というのは考慮されないのか、そのボランティアだけのそういった機関の中でもって、最近できたからということでもって、そこに市はおんぶしていくのか、そこら辺についてお答えをお願いいたします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 国際交流協会につきましては、基本的にはいわゆる民間組織であるべきだというふうに考えております。県内の国際交流協会につきましても、会長さんにいたしましても、やはり民間の方々が会長になっている。そういうことでございまして、これからいわゆる足腰の強い国際交流協会をつくるためには、現実活動している人たちが主になってつくることが、非常に大事なことだと思います。そういう意味では、そ

ういうボランティアだけではなくて、先ほどの辻田議員の発言の中にもございましたけれども、スポーツ少年団あるいはユネスコでございますとか、いろいろな方々が活動しているわけでございまして、最終的にはそういう人たちの意見を集約しながら、国際交流協会を設立したいと、このように考えております。

◎議長（福原 勤君） 以上で26番議員辻田 実君の質問を終わります。

午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開といたします。

午後0時00分 休憩

午後1時02分 再開

◎議長（福原 勤君） 午後の出席議員数26名、休憩前に引き続き会議を開きます。

21番議員神田守隆君。御登壇願います。

（21番議員神田守隆君登壇）

◎21番（神田守隆君） 私の質問は、少しろれつが回らない点がありまして、聞き取りづらいこともあろうかと思いますが、何分ちょっと風邪のために申しわけないと思います。御容赦願いたいと思います。

既に通告をいたしました5点について、市長の所見をお尋ねいたします。まず第1点は、憲法についての市長の所見をお尋ねしようとするものであります。主権在民と平和主義の日本国憲法は、世界に誇れる憲法と思うが、市長の所見はいかがでしょうか、お聞かせください。

日本国憲法は、かつて日本軍国主義が行った侵略戦争の深い反省に立って、もう二度と戦争はしないという強い決意を表明し、恒久平和の理想を高らかにうたいました。憲法9条は、それを実際に保障するために、武力の行使や武力の威嚇による国際紛争の解決に日本が参加することを厳格に禁止し、戦力の不保持を決めたものであり、世界に類例のない先駆的意義を持つものであります。ところが、今憂慮すべきは、国政の場から改憲の動きが強まってきたことであります。自民党の中からは、明文改憲、解釈改憲の両面でこれを壊そうとする動きが広がっています。民社党も憲法改正を公然と唱え、公明党も9条をタブー視しないと言っています。日本新党も、平成維新の会も

憲法改正を主張しています。社会党も今までの護憲の旗を投げ捨て、憲法を創造的に発展させるという創憲なるものを唱え、自衛隊の存続を前提とした準憲法的な安全保障基本法を制定するとして、憲法改正の世論づくりを促進しています。今や憲法の平和原則を確固として守り抜く党は、日本共産党だけという状況でございます。今こそ思想、信条の違いを越えて、平和を願う国民の大きな共同の輪をつくることが求められているときにはありません。憲法の改悪を許すなという大きな世論をつくり上げなければならないと思うのであります。

市長が提案をされ、さきの9月市議会で議決された館山市の平和都市宣言では、「私たち館山市民は、日本国憲法の掲げる崇高な理想を深く自覚し、武力による紛争をなくすとともに、核兵器の廃絶を訴え、世界の人々とともに手を携えて、かけがえのない地球の恒久平和実現のために、ここに館山市を平和都市とすることを宣言します」としています。日本国憲法の平和主義の理想をもとに、この館山市を平和都市と宣言いたしました。今、地方で根づいた平和と民主主義の理念をもとに、憲法を守れという声を大きくしていくことが、大変大切なことではないかと思うのであります。憲法の意義について、どのように認識をなさっておるのか、市長の所見をお聞かせいただきたいと思います。

第2点、都市計画法改正に伴う用途地域の見直しについてであります。施政方針の中で、都市計画法及び建築基準法の改正に伴う用途地域などの見直し調査を行うとしていますが、この点についてお尋ねをいたします。

92年に改正された都市計画法及び建築基準法の重要なポイントは、都市計画における市町村の役割が重視され、市町村の都市マスタープランが創設されたことであります。この都市マスタープランの策定に当たっては、住民参加の規定が設けられ、市町村は公聴会の開催等、住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとしています。この問題をめぐる国会における審議では、住民の意見を反映させることは当然のこととの認識のもとに、具体的なプロセス、手続については各市町村の創意工夫にゆだねたい。公聴会のほかには地区協議会開催、審議会を設置してそこに付議する。アンケートの

実施、意見書の提出等いろいろ考えられるが、市町村に自主的な判断で最も適確な措置が講じられるようにしてほしいと当局は答弁をしております。

さらに、この点をはっきりさせるために、国の責任として住民の意見反映が十分に行われるよう、地方公共団体を指導することとの国会決議がされているわけであります。過日、議会の全員協議会で、また都市計画審議会で館山市のこの都市マスタープランの策定調査概要が示されました。この内容は、いわば決定された都市マスタープランというよりも、むしろそのための議論のたたき台ともいうべきものと思うのであります。この決定に当たっては、当然市民の意見を反映させていかなければなりません。市としては、住民の意見を反映させるために必要な措置として、どのようなことを検討しておられるのか、御説明をいただきたいと思います。

第3点、那古下水路の浄化施設等の計画についてお尋ねをいたします。昨年9月市議会で私は、那古には3つの小河川があるので、那古下水路の浄化施設は、これらを同時に浄化する施設として計画すべきではないかと質問をいたしました。当時の答弁では、それらを含めて現況の調査をするということでありました。昨年度策定の根幹事業実施計画、4年度から6年度によりますと、5年度には下町、那古排水路浄化施設設置となっていました。今年度策定の根幹事業実施計画では、5年度の事業計画は浄化対策基本調査、基本計画、実施計画策定となっております。6年度に整備計画策定、ようやく7年度に実施設計、浄化施設設置となっております。計画全体が、予算の関係もあるとは思いますが、後年度にずれ込んでいることになります。那古の海の浄化対策は、一刻の猶予もない事業ではないかと思うのでありますが、どのようにお考えになっているのか、お聞かせいただきたいと思います。

次に、第4点目、コミュニティセンター入り口付近の交通対策についてお伺いをいたします。この3月25日には、富浦部分の工事も終わり、館山バイパスがいよいよ全線供用開始とのことで、これにより従来の船形などの交通渋滞が解消され、市内の道路交通体系も大幅に改善されることが期待されます。しかし、同時に昨年の供用開始以来、これまでもたびたび指摘されてきたことですが、コミュニティセンター入り口は、このバイパスと国道128号

の交差点に近接しているために、コミュニティセンター入り口付近の出入りが大変不便であり、かつまた危険となっています。今回の全線供用開始で、いよいよこの不便さと危険は増すことになるものと思われます。一刻も早くその抜本的な改善策が求められます。市は、この改善策についてどのようにお考えでありますか、お聞かせをいただきたいと思います。

第5点目、リゾート開発計画の見直しについてお尋ねをいたします。この2月に、今後のリゾート整備のあり方についてとして、国土庁の総合保養地域研究会から、リゾート開発見直しの提言が示されました。私は、これらの提言の内容を実施するには、現在のいわゆるリゾート法はむしろ廃止すべきではないかと思います。なぜなら、リゾート法はいわゆる民活論を前提にした法律であり、国民の余暇活動のために、国が責任を負おうとするものではなく、リゾートや余暇を開発企業の利潤追求の場に提供しようとするところにそのねらいがあったからです。この点は、法律が改正されない以上、変わりようがありません。その点で、今回の提言がリゾート法の制度運用の見直しにとどまったことは、残念なことであります。しかし、それでもその内容は、大変重要な指摘がたくさんあると思うのであります。提言では、従来のリゾート開発のあり方を反省し、好景気とリゾート開発ブームの到来の中で、関係者の中に時流に乗りおくれまいとする意識が強く先行し、リゾート整備の理念と配慮すべき事項についての理解が不十分のまま、開発事業者に過度の期待を持った結果、自然環境の保全の観点や地域振興の観点等よりも、短期的な事業の成果が重視されてきたと指摘しています。こうした反省の上に立って、リゾートの政策理念として次の3つの点を提言しています。1つ、国民のためのリゾートとして、家族そろって1週間程度滞在できるリゾートを。2つ、地域のためのリゾートとして、地域づくりに資するリゾート整備を。3つ、新たな国土形成におけるリゾートとして、自然環境の保全と豊かな国土の創出を。これら3つの指摘は、館山のリゾート開発計画についても大変重要な指摘かと思います。市長は、この提言をどのように受けとめましたか、お聞かせいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、主権在民と平和主義の日本国憲法についての御質問でございますが、私は、日本国憲法の三大特色であります国民主権、平和主義、基本的人権の保障、これは最も大切なものであり、世界的なものであると認識しております。したがいまして、日本国憲法の掲げる崇高な理想を深く自覚いたしまして、世界の恒久平和を願う立場から平和都市を宣言したわけでございます。憲法の意義について、御質問ございましたけれども、国の基本法でございます最高法規として、政治原理として最も大切なものであると認識しているわけでございます。

大きな第2、都市計画法改正に伴う用途地域の見直しについての御質問でございますが、今回の法律改正は、良好な市街地の環境を整備し、都市の秩序ある発展を図るため、用途地域の見直しを行うものでございます。見直しに当たりましては、公聴会の開催や変更案の縦覧等、住民コンセンサスを図ってまいります。また、現在進めております都市マスタープランにおける市の将来都市像、土地利用の基本方針等を示しました、まちづくりリーフレットを全戸配布し、住民意識の高揚を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、那古下水路の浄化施設等についての御質問でございますが、平成5年度に那古下水路及び隣接2排水路を含めました浄化対策のために必要な基本調査を実施しようとするものでございます。

次に、大きな第4、コミュニティセンター入り口付近の交通対策についての御質問でございますが、将来的には、館山白浜線バイパスの供用にあわせて、出入り口の改良を行うことにより安全が確保されと考えております。当面の間における対策といたしまして、建設省、館山土木事務所及び千葉県公安委員会との協議の結果、信号機の改良による処理方法を公安委員会により実施することとなっております。

次に、大きな第5、リゾート開発の見直しについての御質問でございますが、本年2月、国土庁地方振興局長の私的懇談会、総合保養地域整備研究会

から、今後のリゾート整備のあり方についての提言が発表され、参考として内容が送付されてきております。これは、豊かな国民生活を実現する上で、多様で高質なリゾート整備を長期的に取り組む必要があるとの認識のもとで、リゾート整備に関する現状と問題点、見直しの基本的方向、将来展望について提言されております。市といたしましても、国及び県の動向を踏まえながら対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 憲法の理念の問題でありますけれども、一応市長さんの御答弁を伺いまして、心強くも思うところなのでありますけれども、今非常に憲法改正論議というものは、特に国政に携わる場の中でされておるといことも、よく御承知のことだろうと思うのです。私は、そういうときだからこそ、やはりこの憲法の意味、こういったものをしっかりと踏まえるということが改めて重要だということで、地方自治体の長として憲法を守れという、こうした声を地方の中でも大いに議論をして、そういう声を上げていくということが、今の憲法の内容を守っていく非常に重要な、言ってみればとりでになるのではないかなということも考えるわけなのです。そういうところから、市長さん自身がこうした平和都市宣言をしたという中にありまして、さらに積極的に各種の市長会でありますとか、そうしたところを通じて、地方から憲法を守れという声を大きくしていくことが必要ではないかなと、この点についていかがお考えでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 憲法は、先ほど申し上げましたとおり、日本国の基本法でございますし、最高法規でございます。そして、さっき申し上げました民主主義の原点であります三大特色は、日本国憲法の一大特色であります。世界的に誇り得るものだと認識しております。

また、この憲法は崇高な国家目標、政治原理をうたっておりまして、この面からも極めて大切なものであると考え、憲法を守って政治を行うのは当然のことでございます。しかしながら、憲法は昭和22年の5月3日に施行され

たものでございまして、46年経過しようとしています。憲法についての意見の交換、これは自由に伸び伸びとやるべきものであると、さっき議員さんから政党の名前が出ましたが、それは別としまして、と考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 憲法の問題について、伸び伸びとやるということは、それはそれとして大事なことはあろうかと思います。しかし、今の問題というのは決してそういうことではなくて、具体的に憲法の改正ということが政治日程にのってくるかどうかという段階の問題で議論をされているところに、今の問題の切実さというものが私はあるのだろうと思うわけです。ですから、市長さんの憲法に対する所見というものが、今非常に大事だと思うわけであります。こうした問題について、地方自治体の中でも大分論議がされていて、県知事さんが、どこでしたか、憲法の改正には私は反対ですという意見表明をされるとか、そういうことも全国の中でも出てきております。そういう点で、市長さん自身が憲法の改正について、私は憲法を守ると、こういう立場なのだと、こういうことで確認をしてよろしいのでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 現状においては、そういうふうに御認識いただいて結構でございます。一般国民の個人的な感情としまして、ことしの3月の6日、衆議院において、我々に最も関心の深い平成5年度の予算が議決されました。あと1カ月で参議院で審議し、言葉悪いのですけれども、参議院でどうあろうとも、これはもう既に成立。日本の最高機関である国会の民主制が、これでいいかどうかというのは、これだれでも疑問を感じる。こういうような問題が幾つかあると思います。こういう問題については、論議は遠慮なくやるべきと、さっき申し上げたのはそういう点でございます。御了解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 第2点の用途地域の見直しにかかわる問題であります。用途地域の見直しに当たっては、当然公聴会が法律上義務づけられ

るということがあるわけです。それと、都市マスタープラン、これが今回の都市計画法の改正の非常に重要な改正点といいますか、ポイントだったというふうに思うわけですが、要するにこれまでは県知事の権限に属していたものが、都市マスタープランということで、すべての市町村がそれをつくりなさいよということになったと、これが非常に重要な点だろうと思うのです。この都市マスタープランというものについては、都市計画の計画の内容は、この都市マスタープランに基づいてつくりなさいということでありますから、都市計画の変更のいわば前提になるのが、この都市マスタープランということになるわけですから、大変重要な問題だろうと思うのです。それだけに、都市計画の段階以前のマスタープランの段階で、どれだけ住民の意見が反映された形でこのマスタープランがつくられていくのか、これが今回の改正都市計画法の中で期待されている一番重要なポイントではないかなと思うのです。先ほどのお話ですと、このマスタープランのパンフレットをつくって、住民に周知徹底をするのだというお話がございました。また、そういうふうに予算化がされておりますが、しかし問題は、こういうふうに決まりましたからという広報が大事なのではなくして、その前の段階だろうと思うのです。住民の意見がどうやって反映されて、自分たちの計画としてこれがつくられていったのかという過程、経過が大事。そうはいっても、何の議論のたたき台もなくして、いきなりということもあろうかと思うのです。したがって、市の立場からマスタープランの概要をつくったことは、それはそれとして意味のあることだろうと思うのです。あくまでもしかしそれは、議論の出発点として住民に提示をしていくというものではないかなと、その辺のプロセスがどういうふうにお考えになっているのか。具体的には、私は今度のマスタープラン読みましたけれども、資料をつくりました中でも、最低少なくとも各地区ごとに地区協議会なりを設定してもっと、自分の地域がこの館山市の中でどういう意味と役割を全体計画の中で持つのかという、それぞれの地域についての認識を住民がしっかりと持つということが大事だろうと思うのですけれども、そういう点では、館山全体ということも同時なのですけれども、しかしそれはあくまでももっと下からの積み上げた計画をもと

にした中で、やはりとらえ返していくことが大事だと。それにはやはり地区協議会なるものをそれぞれ設定をして、そこで論議をしていくと。これは、国会でもそういうことが予定されて論議されていたことなのですから、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） お答えいたします。

まず、都市マスタープランは、将来のあるべき姿を想定いたしまして、おおむねこれから20年後の長期的な視野に立っての土地利用計画や、あるいは道路、公園、下水道等の都市施設の整備をするという、そのいわゆる指針をつくっておるわけでございます。その中で、これからの都市計画法の中の用途地域の見直しでございますけれども、都市マスタープランの中には、住居系、要するに市街地はここだよという、そういった大きな概念の一つの創造性をうたっておるわけでございます。そんな関係で、都市マスタープランについては、公聴会等は考える予定はございません。今後、用途地域の制度の見直しが3年間あるわけでございますけれども、この中で用途地域については、主に住居系が3から7になるわけでございますけれども、7になったかといって、全部7を適用するかどうかということもわからないわけですが、国はそのような表現をしておりますけれども、国あるいは県は、これからどのように進めてという指導がまだ来ておりません。そんな関係から、これからどのようにしていくかは、国、県の一つの指導を待っての考えでございますけれども、とりあえず市といたしましては、平成5年度について、家屋の動向調査をしていこうと。その中で、その地域がどのような動きをとっているか、そこら辺から、これからの住居系の細分化をなされるわけでございますけれども、そういったところでひとつ、いろいろ住民の意見を反映しなければならないのではないかしらと思っておりますけれども、都市マスタープランについては、市としてはこのようなもので誘導したいということで考えておるわけでございますので、そういったことでございます。次の用途地域の見直しが3年かかるわけですが、そこで慎重に調査をし、あるいはPRをしながら、実現に努めてまいりたいと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 改正された都市計画法、昨年改正されました。その中に追加になったのは、18条の2というやつです。市町村の都市計画に関する基本的な方針というのが追加された非常に重要な改正点です。その点については、承知していると思いますが、この中で市町村が基本方針、これはいわゆる都市マスタープランです。これを決めようとするときは、あらかじめ公聴会の開催等住民の意見を反映させるために、必要な措置を講ずるものとするというふうに、これは法律で決まったのです。そうすると、ここでは例示として公聴会等住民の意見を反映させるために必要な措置を講ずるのです。それが、公聴会がふさわしいかどうかは別として、公聴会も必要でしょうし、地区協議会みたいなものも必要なのではないかということを私は言っているわけなのですけれども、公聴会もやらない。では、市はどういう形で、適切に住民の声を反映させたものとして、この都市マスタープランをつくっていかうとするのか、ここなのです。これがやはり、その後の都市計画の用途地域の変更、地域の変更だとか、都市計画の変更というのは、このマスタープランに基づいてやりなさいとなっているわけですから、そのいわば下敷きになるものですから、この点をはっきりさせて、その段階で住民の意見をきちんと論議して、この住民の意見を反映させるものをつくらないと、後で大変なことになりますよと。宿題をやり忘れると、後で大変なことになる。ツケは倍にも3倍にもなって返ってくる、こういうことになりはしないかということ。そのことが国会でも論議されて、このことは重々よくやりなさいよということで、国会決議までされているわけなのです。その点いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 国では、そのように国会決議がなされておると。ところが、現実においては市には何も参っておりません。単なる改正と、それから市町村の都市計画に関する基本的な方針として、市町村は住民の意見を反映させ、当該市町村の都市計画に関する基本的な方針を定めるものとす

るものとしか書いてございません。そんな関係から、館山市とすればこの都市マスタープランをおおよその概念だけをつくって、そしてこれを待とうということでございます。ですから、そうだからといって公聴会を開かないということでもなし、住民の意見を反映しないということでもございません。ですから、市とすれば少し前へ行っておるというのが現状でございます。これからそのマスタープランをつくろうという市町村もあろうかと思えますけれども、その点をひとつ御理解願って、将来には必ずこういったパンフレット等を配りながら、いろんな機会を通じて、その地域がどのように変わっていったらいいかということを慎重に対応していきたいと思えます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 従来、都市計画法というと、極めて複雑で難しい議論というふうに私らも直観的に感じていたところもあるし、住民の方でもそういう見方もあろうかと思うのですが、しかしここ数年の間、いろんな住民の中から出てきた問題、例えば具体的な話ですと、リゾートマンションをめぐる問題とか、市としても指導要綱だとか、いわゆる要綱行政の中で宅地開発指導要綱ですとか、いろいろと開発行為の抑制措置をとったりとか、いろんなことをやってまいりました。そういう中で、住民も都市計画という問題、こういう中で良好な住環境なり、良好な都市環境なりをどうつくっていったらいいのかという、そういう議論のとは口にみんなもう立たされてきたのです。今までは、どちらかと言えばそういう開発が出てくると、それにどう対処するかということから出発をした嫌いはあります。しかし、では地域全体をどういう地域にしていくのかという、さらに積極的な視点から議論するのが、この都市計画のことです。ありますから、私は館山の市民は非常に賢明に、この問題については、その議論のとは口に立てると、それだけの識見を十分持ってきたというふうに思うわけなのです。ですから、私先ほど言いましたけれども、このマスタープランはパンフレットにして配るのも結構ですけれども、それは大事なことです。しかし、そのことの策定の中に、この新しい改正都市計画法が予定している住民の意見の反映というものを、やは

り積極的に一工夫していくことが、どうしても必要なことなのではないかなと思うのです。確かにこれからマスタープランをつくろうという市もあろうという点で、そのたたき台をつくったという意味で館山市は早かったと思います。しかし、それはあくまでもたたき台だという謙虚な気持ちで、やはり住民の意見の場に供すると。そのための地域ごとの協議の場といいますか、地区協議会なり、こういったものをやっぱり検討していく必要があるのではないかなと。自分たちの地域のあり方や役割というものをはっきりさせる必要があるのではないかなと思うのですけれども、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 神田議員さんの御提言を貴重な意見として伺っておきたいと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 助役。

◎助役（小幡清之君） 都市マスタープランのとらえ方が、私どもと神田議員さんとちょっと、改正都市計画法による基本計画、マスタープランですけれども、ここで私どもが今までやってきたマスタープランというのはそうではなくて、さっき部長ございましたように、これからどうあるべきかという都市像の指針ということでつくってきたわけで、そういった意味では、今議員のおっしゃったたたき台という面でおとらえていただいても結構だと思います。ですから、これから都市計画法に言う基本計画、その中に用途地域の見直しとか、そういったものはもちろん住民の皆さんの意見を取り上げたものになるというように御理解いただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 了解をいたします。

そこで、市では先ほどちょっとお話ししました宅地開発指導要綱ですとか、あるいはリゾートマンション指導要綱ですとか、あるいは景観指導要綱ですとか、この間まちづくりにかかわる点では、いわゆる要綱行政といいますか、そういう中で要綱ですから法的に見ればお願いということになるわけですが、けれども、一定の実効性はあったということは事実なのですから、しかし

どうしても法的な根拠を欠くという点での弱さというものが一面あったかと思うのですが、こうした要綱行政を一步進めて、こうしたまちづくりの今後の中で、こうした要綱をさらに条例化という方向を検討していくというようなことはお考えになっているかどうか、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 実は過去にリゾートマンション等で非常に苦慮した後に、この都市計画法ですか、いろんな建築基準法の見直しがあるよと、そういった中で白地、要するに都市計画の地域外のところについても、このようなというふうな大分前向きなものがなされた。それができれば、我々苦勞することないなというところで、非常に期待したわけでございますけれども、どうもそれについても何かなくなってしまって、現在のような都市計画法の改正にきたわけでございますけれども、現実においては建築確認と、あるいは開発行為がなされたときには、今もって市はそういった指導要綱をしております。それで、実現に向けてしておるわけでございますけれども、さて条例化となりますと、過去に銚子もした、あちらもこちらもいろいろ考えたのですけれども、非常に難しいというのが現状でございます。というのは、上位法がどうしても優先してしまうと。ですから、理念的にはそういった条例化は必要であろうかと思っておりますけれども、現実においてはなかなか条例化ができないというのが現状でございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 新しい都市計画法の改正は、非常にそういう点では新しい視点、新しい視野といいますか、それは市町村の役割を非常に重視したということから、新しい可能性が、子細に検討していけば、いろいろと出てくるというふうに私も思いますので、そういう視点も含めて、ぜひ今後も研究をしていただきたいと思いますと思うのです。

今出ました、いわゆる白地の地域についても、改正都市計画法の中では、例えば建ぺい率は50%あるいは60%で選択をするとか、容積率については100%、200%、300%ですか、それで選択ができるということで、事実上館

山市のほとんどの地域といいますか、いわゆる市街地になっている、用途地域になっているところ以外のところもほとんど白ですから、この地域についても非常に住居系の内容で、高い内容で規制ができるようになったわけです。現実に館山市では、いわゆる白地域について、建ぺい率あるいは容積率、どういうふうにお考えになって運用していくつもりなのか、お聞かせいただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 今後の検討課題として、まだ具体的な考えは持っておりません。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 今回法改正がされたポイントというのは、いわば都市の中心部といいますか、そういうところは土地の高度利用を図ると。しかし、周辺部はそういうものではないということで、言ってみればちょっと富士山に例えれば、富士山の頂上付近がその市街地の中心になれば、そのすそ野部分は、高さも非常に低いものに制限されるというような秩序が考えられてきたわけです。ところが、従来の法体系のもとでは、白地の地域、いわば一番すそ野に当たるところについては、規制が事実上ないということで、こういうところにリゾートマンションがねらいをつけて、法の不備ということで、どんどん高層の建築物がつくられるという事態が出たわけです。ですから、今回の法改正では、これを非常に低いところに抑えるという、白地地域については極めて高さも低くしなければならぬとか、建ぺい率あるいは容積率でも厳しい制限ができるという形、逆になったわけです。そういうことで検討するということでもいいのですか。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） そういった意見も含めて、もう一度検討しようと思っております。ただ、過去からの理念だけは失いたくないと思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 那古の下水路の浄化施設の関係でありますけれども、今回那古の浄化施設については、3つの河川同時に浄化する施設にするということで、私どもが主張した点が入れたという点では、非常に前進的なことだなというふうに私も評価いたします。しかし、そのことと反面ですけれども、ある意味ではやむを得ない面もあるのですけれども、計画年度が極めて後にずれ込んでしまうと。那古の海の浄化ということからすれば、そうはいってもそうおくらせていくということもどうしたものかなという点も感じるわけなのです。その点では、海の浄化対策という点では、むしろ急いでやるべき事業なのではないかなと。3カ年計画にするというのは、ちょっと行き過ぎではないかなという点があるのですけれども、その辺はどういうふうにお考えなのでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 当初の計画では、那古下水路1本ということで計画をしたわけでございますが、それがやはり隣接の排水路も含めてというようなことがございましたので、新たに基本計画をつくらうということでございます。これにつきましては、調査をしてみなければわからないわけでございますけれども、いわゆる財源的な問題、国の補助をいただくようにするとか、いろいろ方策があるわけでございますので、とりあえず根幹の中では、国の補助をいただいてこれを実施するというような予定で計上したわけでございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 最後のリゾート開発計画の見直しについてに移ります。市長さんに端的にお伺いしたいのですけれども、もうここまできたら、館山市のリゾート開発計画については、見直しをするということの意見の表明が必要ではないかなと、そういうお考えはございませんでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 館山市内の今2つ進んでおりますリゾート開発計画

でございますが、これは市と県と国の承認を得ているものでございまして、県で見直しをするから、この案をどうのこうのとできる問題ではございませんので、御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） ただいまの市長さんの御答弁は、たしか一昨年のおきの御答弁と同じだというふうに理解をするのですが、今回リゾート開発計画の見直しについてのこの総合保養地域研究会の提言というものは、国に対しては、こうしたリゾート開発の見直しということを、すぐに国、県も機動的にその見直しに対して対処するようにしなさいよというところまで言い切っているのです。もう見直しはみんな必要なのだと。確かに手続とかそういう問題がありますから、いろいろと直ちにどうだこうだということもありましようけれども、政治的にはやはりこれはもう見直しをしなければいかぬという段階に立ち至っていると、こういうふうに思うのです。市長さんが見直しをしますということをそろそろ、表明する機会というのがそうざらにはないわけで、こういう場で言ってもらうのが一番いいことなので、政治的にはどうなのですかと、そういうことを含めて検討しますよというふうに言えるのではないかと、そういう段階ではないかなと思うのですけれども、いかがですか。

◎議長（福原 勤君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） 先ほど市長が御答弁申し上げましたように、国、県の動向を踏まえて対応をやはりしてまいるということでございます。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） その国、県の動向という中で大事なものは、やはり国土庁の総合保養地域研究会から出された提言というのは、その中でも極めて重要な意味と役割を持つというふうに重視して受けとめていると、こういうことだろうと思うのです。そういうことで理解をしていいのでしょうか。ですから、市としても具体的な指示が来た段階でというよりも、むしろ市町村から内々にはいろんな話が、あるいは国、県に対して何とかしてくださいよという話をしている段階なのか、それはわかりませんが、どうなの

でしょうか。

◎議長（福原 勤君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） この提言が2月に出されまして、文章が来たのが最近でございますので、その内容についてまだ十分勉強が届いていないといえますか、もう少し時間が必要ではないかと。その中で県との協議、これを十分に進めていきたいと、こんなふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 神田守隆君。

◎21番（神田守隆君） 私は、従来ゴルフ場中心で、大企業の開発ということでどうも進んできた、これがやはりもうゴルフ場自身がそんなに収益性が望めないという中で、館山におけるゴルフ場の会員権売買の収益、この資金を大きな柱にしたいいわゆる大企業の開発というのは、もう行き詰まっていると、これは改める必要があると、見直しする必要があるのだという点をやはり強く主張いたしまして、私の質問を終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で21番議員神田守隆君の質問を終わります。

次、6番議員植木 馨君。御登壇願います。

（6番議員植木 馨君登壇）

◎6番（植木 馨君） 我が国の経済情勢は、バブル経済崩壊後、深刻な不況続きで厳しい状況下にあり、国の新年度予算フレームでは、歳入面で税制見込み前年比 1.9%を落ち込む見通しを立て、一般会計予算規模 0.2%増を堅持するには、前年を上回る公債依存型財政は避けられない厳しい財政事情であると同っております。一方、地方財政も法人事業税等の落ち込みが大きい中で、景気浮揚対策のためには、大幅な地方債の増発や基金を取り崩して財政調達をしなければならない、これまた厳しい状況下にあります。

本市の本年度予算案につき、過日一般会計、特別会計を含め、前年比12.4%増の説明を受けましたが、これもまた厳しい財政計画であると思います。そうして、この予算も公債に依存しなければならない状況にあります。本市の基本計画事業達成のための苦慮した予算であり、この大切な財源は、予算に合わせ使えばよいというものではなく、的確かつ効率的な使い方、創意工夫によっては抑制し、市民が真に求めている事業に生かすことも不可能では

ないかと思ひます。このような点を踏まえ、さきに通告いたしました5点について質問をさせていただきます。

まず第1点は、救急救命医療体制の早期実現と見通しについてでございます。この件につきましては、平成5年度の市長さんの施政方針の中では、何1つ触れていないのが残念です。過去何度となく議会での問題として質疑、質問が繰り返されてきました。市民のほとんどが、一日も早く、その切実に強い期待を持って待ち望んでいます。昨年の9月に、辻田議員より総合病院建設についてのお尋ねの御答弁の中で、館山市立総合病院を建設して維持していくには非常に困難であるので、安房地域保健医療協議会の中で、医師会病院の関係及び救急医療体制の整備について、検討をしていくとのことでした。その後、安房郡市地域医療協議会並びに保健医療協議会等で検討された結果だと思ひますが、安房郡市11市町村長並びに安房郡市医師会長連名で、県に安房地域の医療体制整備充実について、千葉県公的医療機関整備事業として助成してほしいと要望書の提出をされたことが、新聞紙上で報道されました。このことについて、市民はいよいよスタートしたなと期待に胸を膨らませております。その後、県の対応はどう動いているのか、状況についてお伺いをいたします。

次に、安房郡市地域医療協議会並びに医師会等で、広域的な維持運営という考え方で検討が進められていると聞いておりますが、その中で高度医療体制の検討まで話が進められておるのかどうか、内容的なことについてもお伺いをいたします。

次に、施設の候補地のことについてでございます。県有地でございます亀ヶ原の農業試験場跡地と、現在の安房医師会病院隣の協豊自動車の2カ所について、検討をしていると聞いておりますが、場所の選定、用地の確保は、建設を具体的に進めていく上で、一番大切なことです。どのような進捗状況であるかお伺いをいたします。さらに、市長さんの救急救命医療体制早期実現に対する具体的なお考えをお聞かせ願ひます。

第2点は、消火栓器具箱の設置と見通しについてでございます。この件につきましては、昨年9月の定例議会で、日中消防団員不在の実態から、緊急

を要する火災発生時の初期消火活動に対応できる、効果的な手段としての消火栓器具箱の設置について質問をさせていただきました。御答弁の中で、諸要件に踏まえた上で検討していくとのことでしたが、新年度予算案では一切盛り込まれていないが、この件に関して市当局はどのように受けとめ、考えておられるのか、また設置についてどのような計画を立てられているのかお伺いをいたします。

第3点は、クリーンアンドビューティフル運動拡大推進についてでございます。平成5年度施政方針の中で、市長は第1に快適でゆとりある生活環境都市、市民が住み、働き、憩いの場として、自然と調和した高い水準の都市づくり、住みよい環境づくりを市民参加の運動展開をしていきたいと言われています。その目標、対策に対し、今後喜んで協力をしていく考えです。

環境対策は、地球的視野に立って考える現在社会です。本市においては、特に河川、海等の公共用水域の汚染に対する汚染源対策を重要課題として取り組んでいる中で、市民の共有財産ともいえるべき自然環境を守るための環境美化対策、つまりクリーンアンドビューティフル運動を実施していることは、環境保全の点、すばらしいことであると思います。しかしながら、毎年の実施内容は、道路両側ポイ捨ての空き缶、瓶拾いといった決まり切った基本理念の部分的活動に終わっているようです。せっかくの環境美化活動ですので、このままに終わってしまうのはもったいない感じがします。本市は、東京湾横断道路、東関道館山線の開通とともに大きな変貌予測、自然と特性を生かした都市マスタープランを策定されました。世界に開かれた海洋性リゾート都市の構築を、大きなテーマとして歩み出ようとしています。そんな大切な時期だけに、自然環境美化は最も大切な要素であると思います。

しかしながら、その自然環境はどうでしょう。本市の河川一帯は、他県には見られない特有のすばらしい景観、竹林を有しております。遠くから見ればすばらしい河川沿いの竹林に、近寄れば枯れた木は倒れ、それにビニール、ポリ切れがだらりと垂れ下がり、段ボール、発泡スチロール、瓶等が散乱し、やりたいほうだい、なりたいほうだいの光景は全く目を覆うばかりです。一たん大雨が降れば、海岸線一帯はビニール、ポリ切れ、プラスチック、発泡

スチロール、瓶類の山と化す状態です。世界に誇れる海洋性リゾート都市を目指す本市が、このようなさまでよいのでしょうか。反省せざるを得ません。館山全域の河川を見て回った3月1日の実態を、ただいま市長さんに撮影したフィルムファイルをお渡ししましたが、これをよくごらんいただき、今後の対策の糧としていただきたいと思います。そのような汚染源を根本から断つ対策、行政力が必要であると思います。いかがお考えかお伺いをいたします。さらに、かかる実情を踏まえ、官民一体となったクリーンアンドビューティフル運動推進拡大を御提案いたしますが、いかがでしょうか。

第4点は、館山－白浜バイパスの建設の見通しと進捗状況についてお伺いをいたします。館山バイパスに直結する127号線富浦進入道路が、3月25日開通の見通しがついたことは、まことに喜ばしいことです。これが開通しますと、館山バイパスの流れが急変、上下線とも大量な交通量が予測されます。したがって、南高交差点、南町交差点は今以上の大渋滞が考えられます。これを解消するには、館山－白浜線バイパスの早期実現が必要であると思います。現段階までの進捗状況と見通しについてお伺いをいたします。

第5点は、さきに質問をいたしました辻田議員と重複いたしますが、館山駅東口国鉄清算事業団用地先行取得後の活用について質問をさせていただきます。昨年の9月定例議会において、橋上駅舎建設に絡め、この用地は東口再開発推進に重要な土地であるので、将来を見越し先行取得すべきである関連質問をさせていただきました。単価が高額のため、市の財政力から考え、また橋上駅舎の方向に大きく動こうとしているやさきであるので、具体的に踏み込んだお答えができないという答弁から6カ月を経過し、その間急激な社会情勢、経済情勢の変化に伴い、全国的に土地の動きも低迷、値下がりを始め、好条件を迎えたこの機に、勇断を持って先行取得に踏み切ったことに対し、高く評価するものでございます。今後の東口再開発に、一転の光を得た感じがします。取得後の有効活用が考えられるわけですが、市当局の活用についてのお考えをお伺いいたします。

以上、5点について質問をさせていただきましたが、御答弁により再質問させていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの植木議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、救急救命医療体制についての御質問でございますが、県により策定されました、安房地域保健医療計画により、今後当地域に必要な施設といたしまして、第1に診療所や病院などがそれぞれ機能を発揮したり、安房医師会病院の積極的な活用を図るなど、一層の機能分担をしていくというものでございます。そして、第2に、特に館山地域では、高度医療及び救急医療に対する住民の要望にこたえる必要があるということでございます。かかる面から、過日県当局に対しまして、この線に沿った要望活動を行ったところでございます。今後県当局への要望活動を続けるとともに、安房郡市地域医療協議会を中心に、広域的な観点に立ちまして、検討を進めてまいります。

大きな第2、消火栓器具箱の設置と見通しについての御質問でございますが、現在県下29市の設置状況の調査を終わっておりますが、これらの動向とあわせ諸要件を踏まえながら、今後消防委員会等関係機関に諮りながら検討してまいりたいと存じております。

次に、大きな第3、クリーンアンドビューティフル運動拡大推進についての御質問でございますが、御案内のとおり、清潔で美しいまちづくりを基本理念といたしますクリーンアンドビューティフル運動は、市民総参加の運動として、究極的には環境美化、河川浄化、花のまちづくり、暴力追放運動の日常的な取り組みにあります。貴重な写真を拝見させていただきました。ありがとうございました。

不法投棄などによる河川の汚染対策につきましては、春、秋の市内一斉清掃の中で取り組み、河川浄化意識の高揚を図ってまいりたいと考えておりますが、この運動には我々市の行政担当とともに、積極的な市民の立ち上がりによります日常的な活動を大いに期待するものでございます。以上でございます。

次に、大きな第4、館山－白浜線バイパス建設の見通しと進捗状況につい

での御質問でございます。平成2年度から用地の取得に着手し、地権者の方々の御協力により、約50%の用地取得が完了したところでございます。

また、今後の見通しにつきましては、高規格 127号富津館山道路の完成にあわせまして、供用できるよう千葉県に陳情しているところでございますが、今後、さらに事業促進について、関係機関に積極的に働きかけてまいりたいと考えております。

次に、大きな第5、館山駅東口国鉄清算事業団用地先行取得後の活用についての御質問でございますが、先ほど辻田議員にお答え申し上げましたとおり、今回の用地購入は、駅周辺市街地の整備と活性化を進めていく上で、必要不可欠という判断のもとに取得するもので、今後有効利用してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） ただいまの御答弁の第1については、既に県が策定した安房地域の保健医療計画であって、新聞紙上等で報道されましたので、十分承知しています。要は、市民が求めているのは、館山管内に24時間救急救命体制の常備的な安心できる設備がないので、早くつくってほしいとの市民の強い要望であって、この要望をかなえてやるのが大切な課題であると思います。その要望にこたえて、現在どう取り組んでいるのか、どう進展しているのか、こういった点をお伺いしたいわけです。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） この問題につきましては、さきの議会でも御質問ございましたとおり、市民の要望としまして、救急救命医療体制に耐える、そのような医療施設が欲しいと、これはしかと受けとめております。この問題につきましては、県の方で発表しましたとおり、一般病院の病床数はここ管内は多過ぎると、これも御案内のとおりでございます。当管内に、全国的にその成果を誇ります安房医師会病院がございます。この医師会病院の内容の充実、これが最高であるという、これも我々各自治体と、それから県と医師会病院関係者等の意見が一致してございます。現在は、その内容につきまし

て、これから検討をしていくところでございまして、先ほど御意見出ました具体的な敷地案らしきものが出ましたけれども、そういうものまでまだいっておりませんので、といいますのは、安房医師会病院の内容の充実といいますが、非常にお金のかかる問題でございます。しかも、医師会病院のお医者さん方の生きる道につながるものでございます。たくさん抱えておりますので、これからじわりじわり詰めていく問題であると認識しております。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 今回の要望書の提出のことですが、私が察するに、まだ具体的な方向が決まっていな中で、公的医療機関として助成してほしいという要望書の提出をされたものと受けとめているわけですが、本来なら、安房郡市地域医療協議会並びに保健医療協議会等で、十分協議して具体的な方向が決まった上で、県に要望書を提出すべきではないかと思いますが、いかがでございましょう。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） そういうお考えもございましょうし、第1段階として、地元の考え方と県の考え方が一致いたしましたので、第1次要望としてこの県の方針に沿った適切な支援、協力をお願いすると、第1次段階としてぶつけていく必要があると、これが効果的だと。そして、こちらの方の体制をゆっくり固めていく、また県と話し合っていくということから行ったこととでございます。いろんな考え方があるかと思いますが、我々が行ったのは、そういう意味でございます。御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） いろいろと御答弁の内容を推察しますと、ちょっと何だか今の進め方が牛歩のような受けとめ方をせざるを得ないわけですが、市民が要望している救急救命医療というものの実現が非常に遠いように思うわけでございます。特に本市は、11市町村のリーダーとしての市でございますので、もっと積極的な行動を起こしていただくようお願いしたいわけですね。

それから、今後の対策の中で、地域住民が本当に求めている、真に求めている施設についてのことや、また候補地の問題とか、高度医療設備問題とか、また24時間体制の救急救命医療体制にまつわる専門員をどうしていこうとか、看護婦をどうしていこうとか、そういう等々の基礎的な面を固めて、十分な協議をしていくということが今後必要と考えられます。その点どうお考えになっておられるのか、お伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） ただいまの植木議員の御意見のとおりかと思います。この安房地域、特に館山保健所管内における救急救命医療体制、その施設、設備の内容、どのような診療科目、どのような場所、規模等々につきましては、相当な経費の裏づけを必要としますし、じっくり腰を据えて研究していく必要がある。御意見のとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） まだこの件に関しては、いろいろな点が質問をしたいわけでございますけれども、まず私が考えるに、この建設を今後やっていくには、非常に時間もかかるのではないかという懸念も受けているわけでございますけれども、まずそのほかにこの建設をして維持していく、そういったことを考えたときに、非常に厳しいというように思いますが、これは地域医療体制の充実が大きな目標でございますので、営利を目的とした事業ではなく、赤字はある程度出るというものを考えての上で、勇断を持った事業を推進していただきたいと思います。そういったことを要望しまして、この質問は終わります。

では次に、2点目は消火栓器具箱設置と見通しについてでございます。この件については、第一歩の対応がなされたものと受けとめております。本年度予算案の編成も終わっておりますので、次年度以降計画的な予算を組み、消防署に遠い地点から設置を要望しておきます。

次に、関連質問ですが、私は日中消防団員不在の実態について、今まで幾度となく触れてきたわけでございますが、火災発生時の緊急を要する初期消火活動に対応できるよう、将来の課題としての消火栓器具箱の設置がされる

ようになりまして、設置地域から消防団の補助的役割を持った自警消防の組織の育成が考えられないものか、御提案申し上げるわけでございますけれども、市当局のお考えをお伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 自警団のような補助的な消防団をサポートする組織がつくれないかという御質問でございます。ただ、現在のところ館山市では、いわゆる災害対策基本法によります自主防災組織、これが結成されているわけでございます。館山では93%という組織率でございますが、とりあえずこれを充実強化していきたいというふうに基本的には考えております。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） ありがとうございます。

この防災会の育成ということでございますけれども、これはもう現にお話も聞いておると思いますが、千倉町等では自主防災会というものをつくって、年に1遍ぐらい消防の指導を受けて、消火栓を使った消火できるような訓練をしているそうでございます。そういったことでございますので、これからそういったものも検討しながら今後対処していただきたいなと。

それから、消火栓器具箱の設置とか、今言った自警消防のこのことについては、消防団関係機関だけではなく市民の声を聞くと、アンケート等をとって、それで市民の要望を優先した執行対応を御提案申し上げたいわけです。では、それを御提案いたしまして、この質問は終わらせていただきます。

次に、3点目のクリーンアンドビューティフル運動拡大推進についてでございます。汚染源を根から断つ市民運動の基本的な手段として、強固な組織づくりというのが考えられるわけでございますけれども、どのような対策をお考えになっておられるのか、お伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 現在市民運動として実施しております、館山市のクリーンアンドビューティフル運動でございますけれども、この主催者、これは町内会連合会等の5つが主催をしております。そして、この傘下といえますか、協賛団体に43団体という多くの組織が入っているわけでござい

す。それが毎年年度当初に一堂に会しまして、C & B運動の推進会議というものを持っているわけでございます。そういうようなことで、組織としてはこれ以上の大きなものはないのではないかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） ただいまの御答弁では、現在組織は各市民団体40団体を挙げての大きな組織であるというふうなことでございます。この組織で今後対策を十分立て、検討いたしまして、きれいなまちづくりの強固な組織づくりとしての大きな組織に成長しますことを御期待申し上げておきます。

3月5日の新聞報道で、市原市八幡の中学校の3年生 248人が巣立ちを前に、育ってきた町をきれいにしよう、地域のために奉仕活動をして巣立っていかうと、自主的な提案により汗を流し、町のクリーン作戦を展開された記事が載っていましたが、このすばらしい心がけを持った生徒の皆さんの行為に、胸を熱くした思いがしたわけでございますけれども、この生徒たちが自分の巣立った町を美しい町にしよう、恥じない町にしようと思い立った純な心は、私たち館山市民1人1人見習っていくべきであろうと思います。さわやかな、きれいなまちづくりをしていく上で一番大切なことは、市民1人1人の理解と心得であろうかと思ひます。

千葉県の環境憲章の中に、「私たち1人1人が環境の守り手であることを自覚し、家庭、学校、職場、地域で力を合わせ、快適な環境づくりを進めてまいりましょう」という憲章がございすが、市民の心を育てていくということが、今後大切な課題であると思ひますが、この点についてどのような対策をお考えになっておられるのか、お伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 市長の答弁にもありましたけれども、この環境美化、環境保全の市民運動は、市民の日常的な活動、そういうものを大いに期待しているということでございすが、議員さんのおっしゃるとおりだと思います。そういう理念に基づいて、これからも進めてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 御提案と申しましょうか、その対策として、例えば市民環境でこういったものを定めてやるとか、また自分たちの地域の実態を目で確認して、その資料に基づいて地域ごとの対策を考える運動を起こしていくとか、またニュージーランド国のクライストチャーチ市のように、きれいな地域コンテスト等を実地して、市民意識の高揚を図りながら、自分たちのまち、自分たちの地域は、自分たちの手できれいにしていこうというその心、また物を捨てない、捨てたらば、お互い勇気を持って注意する、掃除させるという厳しい市民の心を育てる対策も考えられますが、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） そのとおりだと思います。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） いろいろ質問、答弁がなされたわけですが、要は郡内にも県、国内にも誇れるきれいなまちづくりというものを目標にして、市民参加のクリーンアンドビューティフル運動の拡大推進に一層御努力を要望して、この質問は終わります。

第4点目は、白浜バイパス建設の見通しと進捗状況について再質問させていただきます。館山―白浜線県道が今度国道に昇格となり、国道410号線となるということですが、館山―白浜線バイパス建設については、県の道路整備計画により進められてきたと思いますが、館山―白浜線国道昇格に伴い、国の整備事業にかわるものかどうかお伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 昇格した場合は、県管理の国道として県が道路を整備することになると思います。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） 県単事業として継続ということでわかりました。今後、事業促進を関係機関に積極的に働きかけるという御答弁でございました

ので、ぜひともお願いをいたします。この白浜線バイパスは、高規格 127号 富津一館山線道路の供用にあわせて供用していく基本的な考え方なのですが、今後の市内部の渋滞事情等を予測すると、早急な事業促進が必要であると考えられます。現在までの用地の取得も50%完了したということですが、聞くとところによりますと、進入口に近い大網沿いの方は、まだ取得されていないということですが、現在までの用地取得部分内容と今後の見通しについてをお伺いいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 現在用地については、終点側のいわゆる上真倉地区の用地買収を行っておるわけでございますけれども、御指摘の大網地区については平成5年度にお願いするという予定でございます。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） では、わかりました。

次に、白浜線バイパスの全線供用がおくれるような場合とか、それから市内部の大渋滞が起きた場合、その解消対策として館山一長尾線県道までの部分供用ができないものか、お伺いをいたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 将来的に館白バイパスが、どこが先に工事が終わるかというのは、ちょっと今不明でございますけれども、そのようなものができ上がりましたら、当然その部分供用は県にお願いしようと思っております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） わかりました。

次に、関連質問でございますが、平成3年8月23日に、地域の強い要望により、県に陳情のお骨折りをいただきましたが、その館山一大貫一千倉線県道拡幅について、現段階までの進捗状況はどうなっているのか。また、館山一白浜線バイパス供用前に拡幅が完了できないものか、見通しについてお伺

いたします。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） まず、現段階までの館山—大貫—千倉線の御質問でございますけれども、平成元年度より調査、測量を始めまして、平成3年度には南条青柳地区の地主の説明会を開催し、地権者の皆様に御協力を得ながら、平成4年度には館白バイパスの交差部分用地を始めたわけでございます。この県道の館山—大貫—千倉線については、もちろん館白バイパスが完成すれば、非常に有効な道路と思っておりますけれども、現段階では非常に幅員が狭くて、それで自動車の交差することについての安全上、あるいはもう一つ大きく言うならば、館山市が千倉の商圈の拡大といった意味でも、これは早期完成をしなければならないのではないかと考えています。館白バイパスは最も重要な路線で、これが早くできなければならないわけでございますけれども、県に大貫線についても別枠で、しかも大幅な予算の増額を要望しなくては、なかなか思ったような工事ができませんので、その点でまた関係町内会長さん方の陳情もひとつ重ねて、県に要望していただかなければならないと思っておりますけれども、いずれにしてもこの工事については、別枠の大幅な増をしなければいけないと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 植木 馨君。

◎6番（植木 馨君） この件に関してはわかりましたけれども、再陳情ということで、地域の区長さん方にも、またお骨折りの声をかけていただきたいと思います。この館山—大貫—千倉線の県道の開通というのは、市内部の渋滞解消には、好影響を与える重要な路線であるわけで、今後館山—白浜線バイパスとともに、早期実現を図るようなことを要望いたしまして、この件に対しては質問を終わらせていただきます。

5点目は、先ほど辻田議員の質問に対しての御答弁で、取得後の活用ということで御答弁があったわけでございますけれども、まだ具体的な対策が立てられていないと、これから考えていくということでございますので、あえて再質問をする考えはございません。御承知のとおり、特に東口商店街は、

大型店の進出のあおりを受けて低迷が続いております。今後もさらに大型店の進出があると話を聞いております。ますます厳しい状況に置かれるのではないかと感じております。東口の再開発推進事業は、急を要する時期に来ております。今後の東口商店街の活性化のためにも、この用地の有効利用は大切であり、この利用に当たっては、市民の声をしっかりと受けとめ、要望に合った施設を考えるべきであると思います。この際、議会とも十分相談の上、有効活用に努めていただくことを要望しまして、この質問を終わります。

以上、5点質問終わります。

◎議長（福原 勤君） 以上で6番議員植木 馨君の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

午後2時33分 休憩

午後3時03分 再開

◎議長（福原 勤君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

1番議員秋山光章君。御登壇願います。

（1番議員秋山光章君登壇）

◎1番（秋山光章君） 私は、さきに通告をいたしました3件について、御質問をいたしますわけですが、その前に一言ごあいさつを申し上げます。

我が拓世会のメンバーであり、名づけ親でありました故石井輝久氏が、他界されてはや1年たとうとしております。よき指導者でした。御冥福をお祈りいたします。石井輝久先生の遺志を継ぎ、一生懸命頑張っているわけですが、たまたま昨年の全国市議会議長会のアメリカ、カナダの行政視察に参加をさせていただきました。その際に、アメリカではちょうど大統領選挙の最終盤でした。サンフランシスコ、ニューヨーク、ワシントン等で、ブッシュ、クリントンの看板がたくさん立っての選挙期間中でした。帰国後数日で選挙、そして圧勝でアメリカ第42代大統領にビル・クリントンが当選をしました。彼は、私と同年です。ちなみに、彼は1946年8月19日生まれ、私は1946年9月の21日生まれでございます。私とは33日違いのお兄さんクリントン大統領の誕生でした。彼は、就任後まだ日が浅いが、いろいろな政策をもって張り切っています。日米関係もうまくやってほしいと思います。私も館山のた

め、日本のために一生懸命頑張ります。

それでは、1つずつ質問に入らせていただきたいと思います。まず、第1番目の交通アクセスでございます。先月の新聞に、警視庁の調べですと、万年の東京都の交通渋滞は、国民生活の中で1日にして何億円かの浪費、損失という記事が載っていました。このことは、館山でも同じことが言えると思います。

まず、小さい1点目でございます。館山市内を二分しているJRの線路、踏切でございます。市内に18カ所あります。また、遮断機のないところをまぜますとまだあるわけですが、館山駅近くの汽船場踏切では、1日5時間以上道路が閉鎖されています。そのわけは、ウィークデーと土日では違いますが、平均で103回の遮断機がおりて、道路を閉鎖しております。1回が3分以上ということでございますので、仮に3分といたしまして、100回ですか、そうしますと300分でございます。300分イコール5時間、そんな計算をしますと、市内だけでも24時間以上踏切での道路閉鎖があると言っても過言ではありません。館山駅東西口の自由通路、館山駅橋上駅舎で騒いでいる昨今ですが、線路を館山駅より東京寄りに2キロメートル、九重寄りに3キロメートルを高架でできたら、八幡の踏切から今度できるバイパス白浜線まで交通渋滞が解消され、西口、東口が自由に行き来でき、線路の下にもショッピングセンター等ができるかもわからない。商店街等も活気づくと思います。一時停止でつかまることもなく、踏切事故もなく、よいことばかりです。いかがでしょうか。これからは、週休2日制がさらに進む世の中です。ということは、人件費がどんどん高くなるということです。線路は、そのままにしておけば永久に続くものです。時は金なり、館山駅周辺の整備と高架問題は、南房の中核都市館山として、焦眉の急と言わなければなりません。早急にJRと協議し、実現してほしいのですが、いかがでしょうか。

次に、館山駅付近より九重までのたった5キロメートルを30分以上もかかる交通渋滞、千葉銀の角から南町の信号を越えるまで、15分以上かかる時間帯もあるとか。また、館山消防署前の道路も信号を何回待ったらいいのでしょうか。住民の生命と財産を守る救急車、消防車の出動に大変支障を来すと

思います。そして、バイパス入り口の信号でまた渋滞、信号機を変えてからと聞いていますが、いかがでしょうか。市として何らかの対策を打ったのでしょうか。お示しをいただきたいと思います。

また、館山市コミュニティセンターの利用率は目をみはるものがあります。老いも若きも生涯学習を楽しみ、文化福祉都市を提唱する館山市としては、大変ありがたいことですが、コミュニティセンターから国道 128号に出にくく、事故もよくあると聞いています。せっかく勉強に、会議に来た人が事故に遭ったのでは大変です。市として、出入り口をどのように考えていますか。

次に、一昨年 of 議会において、私は海洋交通路について質問と要望を出しました。その後、安房郡市町村議議会、会長は我が館山の福原議長さんですが、東海汽船に竹芝桟橋－館山間の高速艇就航の要請に行ってくれたとの新聞記事は読ませていただきました。大変ありがたいことでございます。東関道館山線が着々と建設されているものの、観光シーズン等には道路の混雑はカバーし切れなと思います。ぜひ高速艇やフェリーボートの就航を切に要望するわけですが、このたびの館山市都市マスタープランには、北条桟橋付近が海上交通拠点となっていますが、現時点ではどのように、これからはどのように対応するのか、市当局の御所見をお聞かせいただきたい。

続きまして、大きい2番目でございます。次に、水道問題を質問をさせていただきます。庄司市長におかれましては、選挙公約の1つに、館野、九重地区の水道未給水地の解消が提唱されております。また、今議会に平成5年度当初予算案が提出されましたが、バブルの崩壊がたたって、不景気真ただ中にもかかわらず、一般会計、特別会計合わせて 261億 3,455万円と、前年対比で 112.4%と、千葉県内30市の中で8番目という、マイナスの市がある中で、すばらしい伸び率で予算組みされました。また、市民1人当たりの予算額は28万 7,000円で、県下の平均28万 5,000円を上回り、県下11番目に位置しております。庄司市長の水道にける意欲が見えます。ますますの御活躍を御期待申すものでございます。

人は、水がなくては生きてはいけません。飲み水、工業用水、農業用水等々ですが、館山市には本当に水がなかったのだなと今思う次第でございます。

水がなかったために、大きい建物、マンションやホテルもなし、また水を使う施設がなく、やむなく館山に建設されようとしたものが、鴨川市に建設された大きな観光施設もあるやに聞いております。そのためにか、いいのか、悪いのか、館山市には自然がたくさん残っております。

そこで、お伺いいたします。昭和59年12月に、館野、九重の水道未給水地に上水道需要調査を実施し、希望するという答えが67.5%、希望しないという答えが32.5%でしたが、その後大気汚染、酸性雨、地下水の汚染等で、住民の意識も変わっているかと思われます。加入希望者数によっては、加入金、水道料金も変わってくると思いますが、その後の調査はしてあるのでしょうか、お伺いをいたします。

次に、南房総導水路の水を受けての館野、九重地区の給水になるわけですが、市長のあいさつの中に、館山までの南房総導水路の長柄からの本管は、48%の布設が終わったとのことですが、同時に進行している館山市水道事業第3次拡張事業です。平成7年度末の完全給水の確約をお願いいたしますが、いかがでしょうか。

次に、配水管の布設事業でございますが、世間では同じ道路を1年じゅう掘り返しているとか、年末になるとか、たくさんの苦情が出ているところがありますが、今回の館野、九重の水道管布設事業には、市長、また水道課の皆様のお気遣いでしょうか、道路の舗装の打ちかえに合わせて先行布設をしているとのことでございますが、実は私、住まいが館山市大井というところなのですが、国道128号線で歩道をつくり、その歩道の中に配水管を布設する工事が、平成4年度の予算にのっていました。昨年の3月、そして4月にもうこれはわかっていただけたわけなのですが、なぜ今年度も終わろうという今になりまして、3月の2日過ぎですか、それから工事が始まりました。なぜ今年度も終わろうという今から工事の発注をするのでしょうか。ほかに、萱野団地の入り口や、腰越から広瀬にかけてもやっております。年度末には、いろいろなところで道路等の工事が行われ、交通渋滞のもとになっています。年間通して平均に仕事を出していただきたいのですが、当局の御所見をお伺いいたします。

続きまして、大きい3点でございます。市長、議会、商工会議所、そしてたくさんの市民の方々の署名をいただき、館山に建設の決定を見ました、県立南地域文化ホールについてお伺いをいたします。館山市は、基本方針を活力ある文化福祉都市を目指しているわけでございます。公民館、青年館、集会所等では、踊り、詩吟、カラオケ、民謡等、老いも若きも楽しんでおります。また、市内いろいろな地区で、コミュニティ主催の文化芸能祭りが開催されているやに聞いております。ちなみに、先ほどから九重のことばかり出して申しわけないのですが、私は九重でございますので、二、三九重のことも挙げてみたいと思いますが、九重公民館は、人口が少ない中ですが、市内におきましては、館山公民館に次いで2番目の公民館の利用率だと聞いております。また、3月21日にはコミュニティ主催のカラオケ大会が小学校の体育館で開催されます。皆、まだか、まだかと楽しみにしているそうです。また、過ぎました3月5日には、地区婦人大学福祉協議会の研修視察に、館山市の大型バスを借りて、旭市のシルバーケアセンターと、千葉県東総文化会館の視察に行っていました。私も同行する予定でいましたが、所用ができ、急遽欠席をしたわけでありましたが、あんなにすばらしいものが館山にできるのかいと、皆さん口をそろえて文化ホールのできるのを皆待ち望んでおります。そこで、お伺いいたします。決定されてはや1年たとうとしていますが、建設に向けての進捗状況を教えていただきたい。

次に、設備、規模の充実についてであります。これは1つ例に出しますが、藤原にできましたあのすばらしい千葉県立館山運動公園、私も何度となく使わせてもらいましたが、あの野球場ですが、あと3メートルないし4メートル足りないだけで公認にならないそうです。ファールラインからあと4メートル離れていれば、公認になるのだがということでございます。公認になれば、プロもノンプロも、また学生も、冬でもめったに霜の降らない館山にて、合宿をしながらでも、あの野球場、その他の施設をたくさんの人が利用できると思います。そんな観点から、文化ホールといたしましては、音響、照明、身障者対策等、あらゆる設備を充実したものにし、すばらしい文化ホールにしていきたいのですが、いかがでしょうか。

続きまして、3点目でございます。東総文化会館には、大小2つのホールがあるようでございます。館山にできるホールも、少人数でも気軽に使える、また多くの人数の全国規模での集会でも、これはすばらしいというホールをつくってもらいたい中で、やはりこの施設は、文化、福祉でございます。この施設では、もうけはできない、商売になる稼ぎはできるわけではありません。そういうわけで、管理運営のあり方について伺いたいと思います。

以上3点、10項目についてお伺いいたしまして、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの秋山議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の小さな第1点目、JR線路の館山駅前後を高架にとの御質問でございますが、いわゆる連続立体交差事業につきましては、踏切における自動車交通量並びに電車運行本数の現状から、採択要件を充足しておらず、現時点では事業化の見通しは大変難しいというのが実情でございます。しかしながら、交通環境、市街地整備等まちづくりの視点から、将来的には必要な事業であると認識しております。

次に、小さな第2点目、南町の交通渋滞解除についての御質問でございますが、道路の信号機は、県の公安委員会が地元警察署を通じ、設置及び管理を行うものでございますので、館山警察署に照会いたしましたところ、この交差点における信号機のサイクル時間を調整し、検討しているとのことでした。

次に、小さな第3点目、国道128号より館山コミュニティセンター出入り難についての御質問でございますが、神田議員にお答えしたとおり、将来的には館山－白浜線バイパスの供用によるところでございますが、当面の処理といたしまして、信号機の改良により対応を図っていくことになっております。

次に、小さな第4点目、海上交通の開設に関する御質問でございますが、さまざまな課題もあり、現在は白紙の状態でございます。しかしながら、リ

ゾート地として多様な交通手段を確保する観点から、その必要性は十分認識しているところでございます。

次に、大きな第2の小さな第1点目、水道加入見込みについて、昭和59年以降調査したかとの御質問でございますが、館野、九重地区上水道需要調査はその後は実施しておりません。

なお、水道拡張工事につきまして地元説明会を開催いたしましたところ、世帯数で約64.5%の方々が出席されました。この説明会では、水道全般にわたる質疑が行われました。住民が水道施設の早期実現を希望している、このことを痛感した次第でございます。

次に、小さな第2点目、南房総導水路を受けての平成7年度末の館野、九重の完全給水はオーケーかとの御質問でございますが、平成7年度一部通水は実質的な工事期間、また国庫補助金の採択状況から、スケジュール的には厳しいものと考えられますが、企業団の通水と同時に給水できるよう、この目標達成のため関係機関挙げて鋭意努力しているところでございます。

次に、小さな第3点目、年度末に工事の集中するのはなぜかとの御質問でございますが、平成4年度国庫補助金の内示が4月末に示され、これに伴う国道の配水管布設工事は9月末をもって完了いたしました。ところがその後、10月末国庫補助金の追加内示により、国道及び市道の配水管布設工事を追加発注した関係で、年度末になったものでございます。

次に、大きな第3、県立南地域文化ホールについての御質問でございますが、関連いたしますので、一括お答え申し上げます。建設に向けての進捗状況についてでございますが、さきに辻田議員にお答えしたとおり、今年度の基礎調査につきましては、現在取りまとめの段階であると同っております。したがって、規模等についても県からは示されておりませんが、市といたしましては、文化団体等関係者の意見を参考としながら、地域における文化活動の拠点としてふさわしい施設の建設を要望しているところでございます。

管理運営のあり方につきましては、地域の特性に考慮いたしました、親しみやすく使いやすい文化ホールとなりますよう、県当局に対し、積極的に働

きかけをしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 答弁ありがとうございました。

まず、第1番目の高架の問題でございますが、私は議員にさせていただきましてから、駅前開発特別委員会というところに所属をしております、視察にも何回か行かせていただきました。その中で、過ぎた昨年度は掛川、これも駅前再開発、これは新幹線の駅をとめるために市長、また市の執行部が大変国鉄への足を運んで、100回以上市長が足を運んでやったと。そういうようなことを聞きまして、やはり我々がやらなければ、市が持っていかなければ何もできないのだなということを痛感して帰ってきたわけでございますが、そういうのを加味いたしまして、言うわけでございますが、先ほどの踏切の話は言ったとおりでわかるかと思いますが、駅前がここへ来て、ジャスコ等の増床等で、だんだんと閑散化しております。そういう中で、駅前をいかにしてよくするかは、こういう線路の高架等がやはり必要ではないかなと思うわけでございます。茂原が高架になりまして、高架になる前は我々小さいころには茂原は七夕がすごいのだと、茂原の七夕はすごいよということで、皆さんは見に行ったことがあると思います。それが、バイパスができたおかげで、だんだん閑散化しまして、駅前が全然通りがなくなりました。それに合わせまして、茂原では54年度から62年度までかけまして、131億ですか、JRとあれしまして、高架にしました。そうしましたところ、ひとりでジャスコやそごうが出店をしまして、今は茂原の駅前はすごいのだと。ほっといても人が来ると、そういうようなことも聞いておりますし、船橋も高架、これは京成ですけれども、高架でつくっている。これも来年あたりには完了するということだと思っておりますが、先ほどの話の中に、交通量がそれまでないのだということではございますけれども、このまま置いておけば、それこそこの中にありましたけれども、いつになっても同じことでございます。10年くらい前ですか、中村代議士が館山市にこの線路を高架にしたいのだけれどもということが市長、また市議会の方にあったそうですが、その後の話

はどうなっているか教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 今の具体的なお話でございますが、10年前というと、JRが東日本鉄道旅客株式会社になる前のときだと思いますので、もうそのころでございますと、国のお金で国鉄あるいは駅は、国鉄時代でございますから、改修などができたのだと。今は株式会社でございます。全然条件が違うということを、いつか中村代議士がじかに話され、聞いたことを覚えておりますが、10年前で細かな内容、まだ市長になっていませんので、わかりませんので、御了解賜りたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 当時の市長さんが今いらっしゃらないので、こんなことでもめてもしようがないのですけれども、そのときの議会には落られているのかどうか、私もそのときに議員ではなかったので、わからないのですけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 特に議会の方に落ったということは記憶にはございません。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） それでは、前の市長さんがひとりでに、それではもう館山はいいのだよということで断ってしまったのでしょうか。今さら何を言ってもしょうがないのですけれども、国鉄のときにやってあればもうできたと、国鉄時代は国鉄がやったのだということであれば、もうできていたとすれば、今さら西口、東口で大騒ぎやっていることもない、また橋上駅舎だとか自由通路も関係ないと思うのです。それが、先が見えなかったのかどうかはわかりませんが、実はけさの新聞に、鴨川市で橋上駅の促進協議会をつくったと、会長には本多市長と書いてあります。鴨川市には、自由通路なるものがもう何年も前にできております。最後に、参与と書いて、秋山文男と書いてあるのですが、鴨川の駅長、私同級生なのですが、鴨川どうだかと前に橋上駅舎のことでちょっと話をしたときに、みんな便利で使っているよと

いう話があったのですけれども、それにもかかわらず、今度こういう格好で橋上駅の促進協議会ができると。ということは、自由通路よかったのだけれども、また上を見たらばもっといいものがあったのだと。それなら、もっといい橋上駅舎がいいのではないのかと。それからいいますと、木更津が今橋上駅舎あるわけですから、木更津でも高架の話が出ているそうです。そういうわけで、何億もかけて自由通路をつくって、いや、それではいけないから、今度は橋上駅舎にしようといってまたお金をかけている。それでやるのであれば、計画的に、今市長から先を見てという少し建設的な意見も伺いました。そういうわけで、橋上駅舎自由通路もとにかく西口ができるので、なければいけないかも知れませんが、先を見越してＪＲ線を高架に持っていくのが、一番ベターではないかと思えますけれども、そのことについて、私今ここまで話ししましたけれども、市としてはどんな考えをお持ちか、もう一回教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 先ほど市長が答弁いたしましたように、長期的には最も有効だという認識を持っているわけですが、なるべくそういうことになればいいと思いますが、誤解のないように言っておきますが、この高架の事業主体というのは県でございますので、今後ともそういう、実際的には一番理想的な形でございますので、機会を得て要望というか、協議をしていく、こういうことになろうかと思います。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎１番（秋山光章君） ぜひそういう方向で御尽力願いたいと思います。

続きまして、南町の信号でございますが、これはもうみんな話の中に、南町は困ったなという話が、特に何かにつけて出てくるわけでございます。これも公安委員会の関係ですので、我々が市はお願いをするということかも知れませんが、実は３月１日より火災予防週間がありました。その中に、不幸にしても何件かの火災が館山市でも発生をしたかと思えます。救急出動もここへ来て随分ありましたけれども、消防署の前の混雑あそこで支障を来したというようなことは、この期間中になかったのでしょうか、ちょっ

とお伺いします。

◎議長（福原 勤君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） 広域消防の方の関係になりますが、あそこに消防活動に支障が来るのではないかと、南町交差点の渋滞に伴う支障がないかという御質問でございますけれども、広域消防にちょっと照会したわけでございますけれども、その回答では渋滞が、特に日中という表現使っていましたけれども、日中出る場合にやはり常時誘導員といいますか、そういう方々が出てきて緊急出動するというようなことの回答がございました。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 救急車や消防車がそんな格好して道路に出るようでは、やはり本来からの所期の目的には合わない道路ではないかなと思います。そういうわけで、信号機を何か時間で合わせて変えているということですが、私ども走ってみまして、あそこでとまって時間とかはかってみてはいるのですけれども、飯塚さんの前ですか、あそこから下から上がってきまして、豊房の方に抜ける道、あそこで豊房の方に曲る車がありますと、もうつかえてしまう。下から来る道、あそこで信号何回待ちと、それに伴ってやはりいろいろな面の道が全部詰まっているようでございますので、ぜひ用地の取得も大変かもわかりませんが、そういう点を踏まえまして、少しでもあそこをスムーズに通れるように、またそれから今、その先もありますので、それではもうその先ですか、コミセンの方まで一緒に言ってしまいたいと思いますけれども、その南町の信号を受けまして、コミセンの前でまた混雑をするわけでございますけれども、この3月の25日には、それこそ富浦が供用開始になりますと、まだ供用開始前でも、ここへ来て随分イチゴ狩りのバス等があそこを通っています。南町の方を通らずに、海岸を通らずに、バイパスを通ってイチゴ狩りの方へ向けて走っているわけでございますけれども、3月25日を過ぎて、これから連休にかけましたら、もっと大変なことになるかと思います。そういうわけで、先ほど、私もちょっとくじ運が悪くて、辻田先輩や、そして神田先輩がいろいろ御質問した後で、私もやりづら

いのですけれども、とにかくこの信号機を変えるだけでカバーができるのでしょうか。

そしてもう一つ、これからまた先のものと関連はしますけれども、コミュニティセンターの中に文化ホール等が建設される予定になっていると思います。平成7年度末の完成予定で、これが動くわけですが、工事車両です。ことしは2,500万の予定、調査費ということですが、工事が始まった時に、バイパスが向こうまでつながっていなかったときには、あそこからあのままですと、工事車両の進入等に変な支障を来すのではないかと思いますけれども、その信号だけでカバーできますでしょうかどうか、お伺いしたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 建設部長。

◎建設部長（伊東 衛君） 将来的な解決方法というのですか、これは館白バイパスができなければならないと思います。そうしましたときに、相当量の問題が解決されるのではないかしらと思います。それで、現在では公安委員会の方で検討しておりますけれども、検討といっても、もう既に実施の中のいろんな発注の段階ではなかろうかと思っているのですけれども、補助信号をつけて、それを解決するというのをこちらに参っておりますけれども、その方法については、こうだよということについては説明がございませんけれども、そのようなことで解決がなされるということを言っております。それから、例の中の工事のことについては、これは当然昼間ではいろいろ大きな車が入ってきては困りますので、そういったときには当然朝早くだとか、夜遅くだとか、そういったことで対応をしなければならないのではないかしらと思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） それは、今大綱とかあっちの方が、先ほどの植木議員への答弁の中に、平成5年から用地の買収ということになっておりますので、当然コミセンの中の道路だけ先に進むということもないかと思いますけれども、そうしますと朝晩だけということは、生コン車等が来たときには、

朝晩だけというわけにいかないと思います。そういうわけで、よく協議されて、また補助信号等をつけていただきまして、これからあそこは大変混雑する場所なので、早期にいいように解決をしていただければありがたいなと思います。

次に、海洋交通のことでお伺いをしたいと思います。この海洋交通には、館山市根幹事業実施計画にも、私が議員になってからずっと新交通システムの導入ということで、海洋交通路開設事業となっております。その中で、事業内容はいつ見ても事業化の検討ですか、先ほどもちょっと質問の中に入れましたけれども、私どもの議長さんがお忙しい中を割いて、ほかの町村の議長さんと一緒に東海汽船に行ってお願ひして、ここにもそのときの新聞があるわけですが、大変いい感じだったと、館山ルート復活申し入れということで、フェリーや高速艇の就航要請ということで、同汽船側の対応は前向きだったと書いてあるのですけれども、その後市としては、このことについてどこかへの協議はされた経緯ありますでしょうか、教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） ただいまの秋山議員さんのお話ございました安房郡市の議長会で、東海汽船さんの方をお訪ねになったと。そういうことにつきまして、その内容等につきましては、大筋において私ども承知をいたしております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） この海洋交通につきましては、アトラクティブ鏡ヶ浦計画や、そして根幹計画、あとはリゾート法の中にも海洋交通路は入っております。そういう中で、とにかくこれはやらなければならないことではないかと思うのですが、その中で、この根幹計画の中には事業主体や組合等となっておりますけれども、これは市は関与しないということで、組合ということになっているのでしょうか、教えてもらいたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 経済部長。

◎経済部長（小沼 晃君） 事業主体につきましては、はっきりしておらないと。といいますのは、事業そのものが明白になっていないというような部分があるわけでございます。この海上交通につきましては、市長答弁にもございましたように、これからリゾートという面を考えました場合には、1つの交通手段、単なる交通機能だけではなくて、やはり船旅というのは、リゾート的な感覚もあるわけでございます。現在県の方で、海上交通ネットワーク形成可能調査というのを実施しているというふうに聞いております。内容といたしましては、港湾建設の整備や集客力、さらには海域利用の利害関係者の調整などの解決すべき課題というような、そういうのがあるわけですが、それを踏まえまして、具体的な海上交通のモデルルートを設定し、この中にはこの南房総のルートも含まれているというふうに私も伺っておるわけですが、旅客の需要予測、それから事業手法等の検討を行っておると。この年度内に成果がまとまるというふうに伺っておるところでございます。したがって、市といたしましても、県の調査結果との当然これは整合というようなものも考えていかなければいけないわけですが、関係者の皆様方と、それぞれの立場を尊重しながら、腹藏のない話し合いの中で、熟度を高めていくと。そういうような1つの流れの中で、具体化に向けて努力をしてみたいと、このように考えております。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） はい、わかりました。ぜひ早急に、根幹計画の中には、こういうふうに事業化の検討だけではなくて、実施の方に向けてお願いをしたいと思います。

次に、水道の問題でお伺いをしたいと思います。上水道需要調査結果ということで、ここにもその当時のやつがあるわけですが、希望する、希望しないということで、結構の人が希望する。また、去年の夏ですか、大変暑い中を水道課の皆さんが館野、そして九重の未給水地の集会所に昼、夜となくおいでいただきまして、説明をしてくれて、私も同行させてもらったところが何カ所かあるわけですが、そのときの、先ほど市長答弁の中に

も大変感じはよかったなということはありますけれども、その中にどんな要望があったか、2つ、3つわかったら教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 御指摘のどのような要望があったかというような御質問でございますが、この説明会で受けた内容は、まず水道加入に際しましての負担額、それから水道料金の問題、それと配水管の布設位置、そういうものが重立ったものでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） はい、わかりました。住民としては、いろいろ気になる点がたくさんあるかと思いますが、早いうちの水道導水をよろしく願いたいと思います。

続きまして、平成7年度末の完成を目指して動いてもらっているわけですが、聞くところによりますと、何か国庫補助金が大変出が悪いというようなことを聞いておりますけれども、国庫補助金によって、国が3分の1、市、そして水道企業で3分の1ずつの負担で、水道工事がなされているものと思いますが、今年度、平成4年度は何%ぐらいの要求額、2億7,600万と思えますけれども、どのぐらいの補助金が第3次拡張工事に來たのか、教えてくださいたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 国庫補助金の採択率の関係でございますが、当初2億7,608万7,000円に対しまして、14.3%ということで採択なったわけでございます。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 100%来て決まったとおりの水道の工事ができるわけなのが、14%しか来ないということは、100メートル工事やるやつが、14メートルしかできないということだと思います。そういうわけで、これで平成7年度末までにできてくれなければ困るわけですが、これからいか

にして国庫補助金を採択され、もらえるようにしていくつもりでしょうか、教えていただきたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 本年度の国の財政も大変厳しいということを聞いてございます。先ほど市長答弁いたしましたように、補助金の確保につきましては、今後とも強力に要望を繰り返し、お願いすることが必要と思われます。この問題につきましては、館山市だけの問題ではございません。南房総、そしてまた17市町村の問題でございますので、館山だけ特別に補助金をいただくというわけにいきませんので、関連をしてございますので、今後とも17市町村力を合わせてこの要望に向かっていきたいと、このように思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 国庫補助金の問題で、今お話しましたのですけれども、前回3,900万までしか来なかったと。2億も申し込んだのに3,900万。また来年度、平成5年度でも2億5,800万国庫補助金が申し込んであるわけでございますけれども、これを満額取っていただきまして、とにかく平成7年度末には、我々水道のない未給水地に水道の配水管布設をぜひお願いをしたいと思います。

続きまして、工事の関係で1つお伺いをしたいのですが、年度末に近くになってから、国庫補助金が少しおりてきたから、できたということでございますが、実は市道になるわけですか、千葉銀行から渚銀座に入るあの辺の道路、皆さん走ってもらってもわかりますけれども、穴ばこというのですか、舗装のふきかえやった箇所がばこばこあります。走っていても本当に不愉快になるぐらい。あれは聞くとところによりますと、全部水道の工事の跡だということをお聞きしておりますけれども、線路から上、30メートルぐらいのところですか、あそこでも5カ所ぐらいの舗装のふきかえの跡があります。聞くとところによりますと、あの前のガラス屋さんなどは、道路より家の方が低いということで、部屋の中に水が入ってくることがあるということをお聞きして

ますけれども、あそこはどういうわけでああいうふうな格好なのでしょう。配管が古いのでしょうか。それとも何かわけがあるのでしょうか、教えてもらいたいと思います。

◎議長（福原 勤君） 水道課長。

◎水道課長（鈴木信一君） 御指摘の千葉銀交差点からＪＲ踏切に至る道路の件でございますけれども、あその道路は大変交通量も多くございますし、地質も悪いということで、しばしば漏水が発生をしております。水道事業体といたしましては、できるだけ道路管理者の行う舗装の打ちかえを待って先行工事を行いまして、経費の節減に努めるというのが状況でございまして、漏水の多発する場所につきましては、今後の配水管の増径計画を考慮して、布設がえの検討してみたい、このように思っております。

以上でございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） それでは、パイプも古くなったのか、また道路が地盤が悪くてということだと思いますけれども、できましたら２メートルぐらい掘らないで、配管が１本５メートルだと思いますから、５メートル１本ずつ交換してやれば、もう少し地盤に耐えられるだけの配管だと思いますので、ぜひそういうことを加味しながら、住民のよその家の中まで水が入るようでは困りますので、また水のないときに、もったいないので、ぜひ早目に工事等をお願いをしたいと思います。

続きまして、文化ホールのことについてお伺いをします。この文化ホールは、県立ではございますが、館山市のために、南房館山を周辺とした地域のためにつくる文化ホールでございますが、昨年の文化ホール誘致に当たりました、文化ホール友の会でしょうか、住民の会でしょうか、そういう方がやはり頑張ってやってくれたわけでございますが、その後この会でいろいろな、どんなものをどういうふうにしたらいいのだというようなアンケートをとったような話がありますけれども、市としてはそれは聞いておりますでしょうか。もし聞いていましたら、どんな点があったか２～３点出していただければありがたいのですが。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 誘致に非常に尽力のあった方々や、あるいは文化団体でございますけれども、その方々からは、内容といたしましては、東総の文化会館は大ホールが 900で、小ホールが 302なのですが、そういうのではちょっと小さ過ぎるのではないかとか、あるいは、これは専門的になりますけれども、いろんな舞台のそでだとか、舞台の裏を広くですとか、いろいろ出ておりまして、この関係につきましては、この基礎調査をやっているコンサルと話し合いをした機会を持ったところでございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1 番（秋山光章君） はい、わかりました。

それと、県でつくるこの文化ホールについては、ここにも東総文化会館のカタログあるわけですが、飲食の場はこの中には入れないのだと聞いております。そうしたときに、あそこのコミュニティセンター、今でも食事をする場所がないわけですが、あの位置に文化ホールをつくりましたときに、軽食堂ですか、ちょっとした食堂などは、この中につくる気持ちがあるのでしょうか。また、つくるならばそれなりのいろいろな計画は、市でやらなければいけないと思いますけれども、いかがでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 現在、基礎調査を取りまとめている段階であるということと、それから平成 5 年度で基本設計、地質調査等で 5,250 万円の予算がついたわけですが、その中で当然検討されていくことであると思いますが、やはり食事のできるスペースというものは必要ではないかということでもって、要望はいたしております。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1 番（秋山光章君） それは、県ではつくらないということでございますけれども、それは市でやらなければいけない事業だと聞いておりますけれども、県の方へ要望ということでよろしいのでしょうか。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） そのとおりでございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） もう時間もないので、最後に袖ヶ浦から天津小湊までの老人の方を対象にしまして、老人大学というものがあるそうですが、袖ヶ浦から天津小湊といいますと、真ん中の館山がやはり一番適地かと思えますけれども、あのコミュニティセンターの、また文化ホールに合わせまして、県の老人大学を誘致するような意図はありませんでしょうか、お伺いします。

◎議長（福原 勤君） 市長公室長。

◎市長公室長（永野 修君） 県の方、関係課に要望いたしているところでございます。

◎議長（福原 勤君） 秋山光章君。

◎1番（秋山光章君） 要望いたしているということですか、要望しているということですか。

◎市長公室長（永野 修君） そのとおりでございます。

◎1番（秋山光章君） では、ぜひこれに合わせまして広大な土地も、それこそ東総文化会館の敷地の4倍あるということを聞いておりますので、ぜひそういうものをあわせまして、すばらしい文化ホールつくってほしいと思います。

以上です。

◎議長（福原 勤君） 以上で1番議員秋山光章君の質問を終わります。

延 会 午後3時56分

◎議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

次会は明11日午前10時開会とし、その議事は本日に引き続き通告による行政一般質問を行います。

この際申し上げます。一般議案、補正予算に対する質疑通告の締め切りは
3月11日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問

